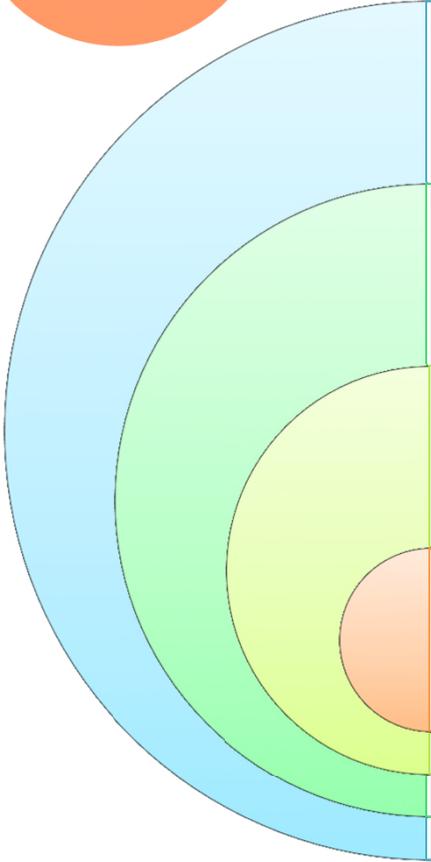


平成
29年度



浦安の子どもたちの 確かな学力の向上を目指して

全国学力・学習状況調査
浦安市学力調査 結果概要

浦安市教育委員会

目次

調査概要……3

国語結果

- ・ 小学校4年生……7
- ・ 小学校6年生……11
- ・ 小学校優れている点・課題……13
- ・ 中学校2年生……15
- ・ 中学校3年生……19
- ・ 中学校優れている点・課題……21

算数・数学結果

- ・ 小学校4年生……25
- ・ 小学校6年生……29
- ・ 小学校優れている点・課題……31
- ・ 中学校2年生……33
- ・ 中学校3年生……37
- ・ 中学校優れている点・課題……39

英語結果

- ・ 中学校2年生……43
- ・ 優れている点・課題……47

質問紙結果……49

調査概要

調査種別・教科

・実施学年・人数

全国学力・学習状況調査

平成29年4月18日(火)実施

国語、算数・数学

- ・ 小学6年生 1,602名
- ・ 中学3年生 1,368名

浦安市学力調査

平成29年6月2日(金)実施

国語、算数・数学、
英語(中学2年生のみ)

- ・ 小学4年生 1,556名
- ・ 中学2年生 1,345名

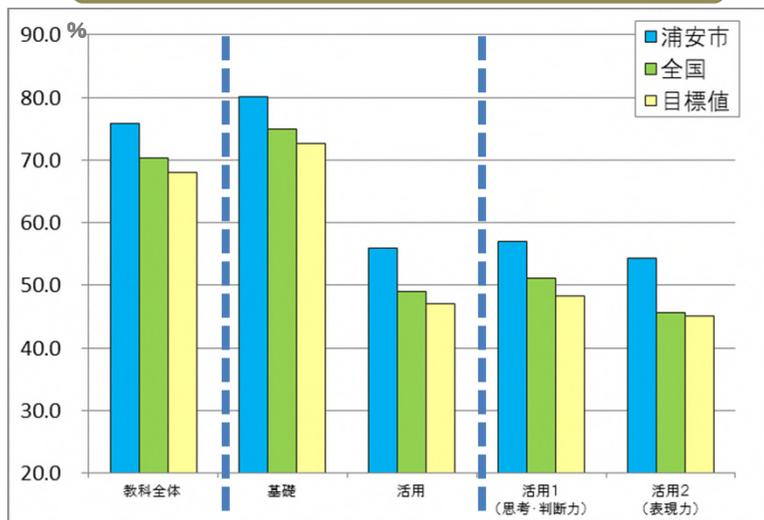
国語結果概要

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
	教科全体	76	70	68
基礎		80	75	73
		56	49	47
活用	思考・判断力	57	51	48
	表現力	54	46	45
観点	話す・聞く能力	78	72	70
	書く能力	67	60	60
	読む能力	72	66	62
	言語についての知識・理解・技能	78	72	71
領域	話すこと・聞くこと	81	76	73
	書くこと	71	64	64
	読むこと	73	67	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	73	71

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

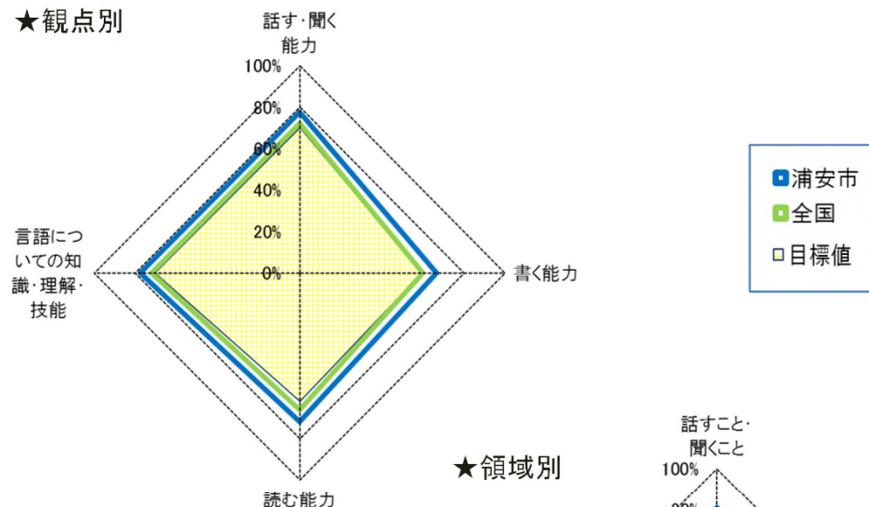
教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



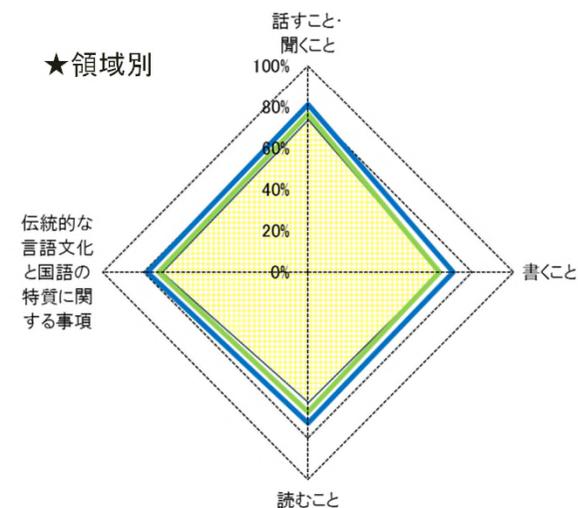
「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

教科全体において、平均正答率の全国値（70%）に対して、浦安市は76%と全国値を上回る結果でした。

領域・観点ともにすべて目標値・全国値を上回っており、特定の領域・観点到に偏ることなくバランスよい正答率となっています。

平成28年度と平成29年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H28年度			H29年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		74	70	68	76	70	68
観点	話す・聞く能力	75	72	70	78	72	70
	書く能力	64	61	60	67	60	60
	読む能力	71	66	62	72	66	62
	言語についての知識・理解・技能	75	72	71	78	72	71
領域	話すこと・聞くこと	79	76	73	81	76	73
	書くこと	68	65	64	71	64	64
	読むこと	72	67	63	73	67	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76	72	71	78	73	71

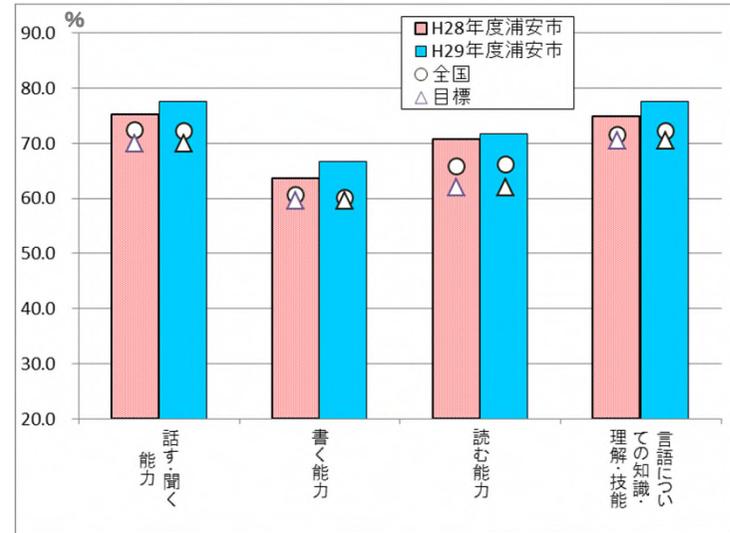
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注釈

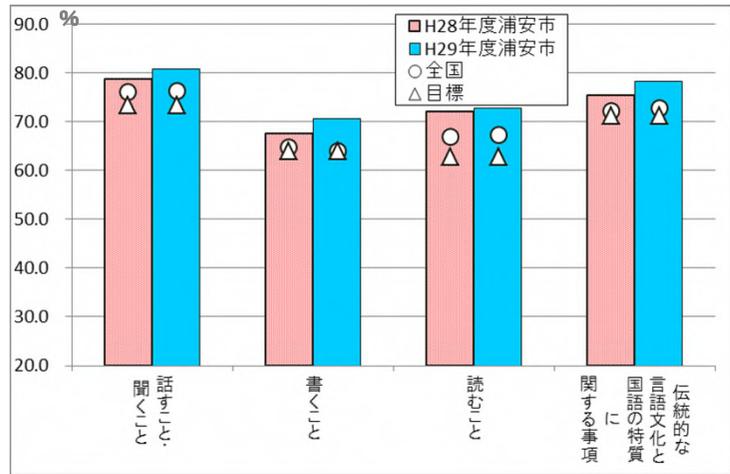
観点別にみると、「話す・聞く能力」の3ポイントをはじめ、全ての観点で前年度を上回っています。
 領域別も同様で、「書くこと」の3ポイントをはじめ、すべての観点で前年度を上回っています。

平成28年度と平成29年度 経年比較グラフ

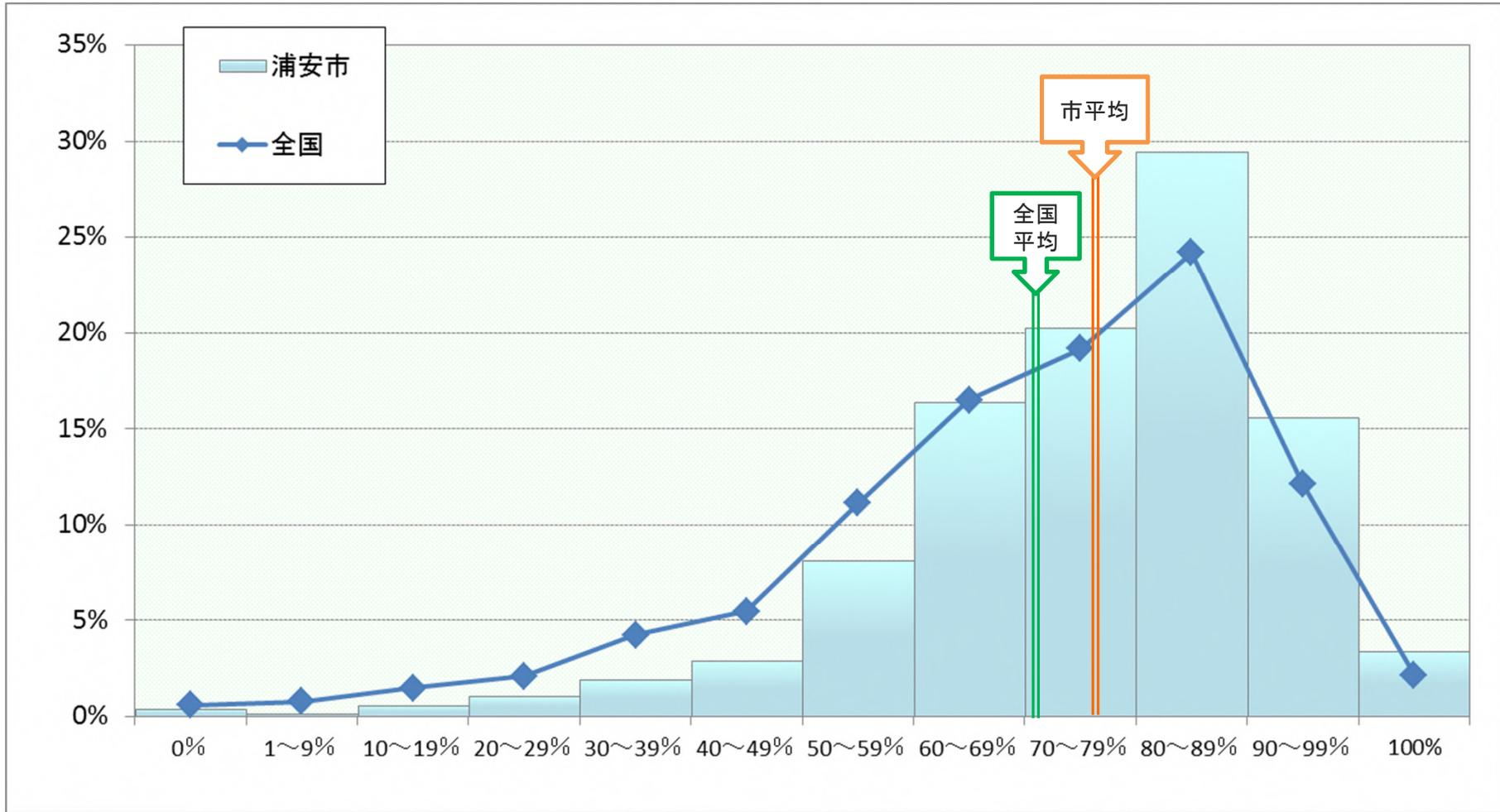
★観点別



★領域別



平成29年度 小学4年生国語 正答率度数分布



度数分布について

正答率が70%~100%の児童の割合は、いずれの区分においても、全国より高いことが分かります。正答率が70%以上の児童の割合は全体の69%で、全国（58%）を11ポイントと大きく上回っています。

平成29年度 小学4年生国語 質問紙調査結果

★市全体と全国との比較

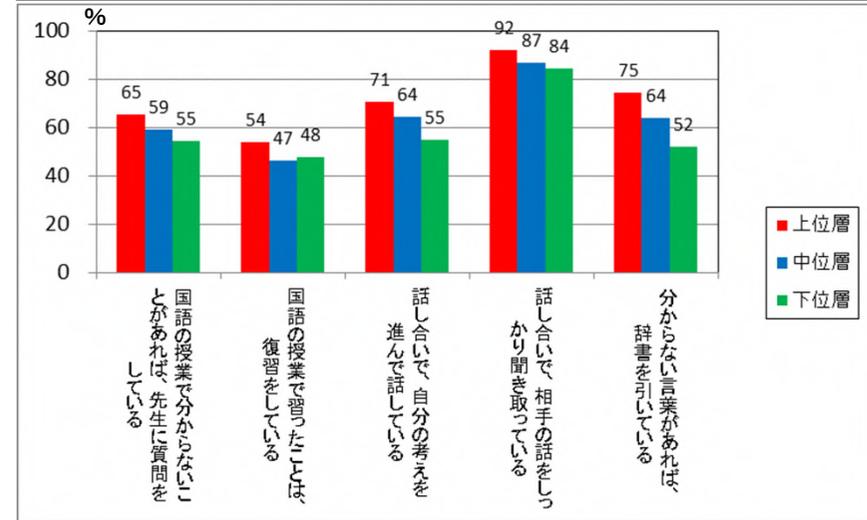
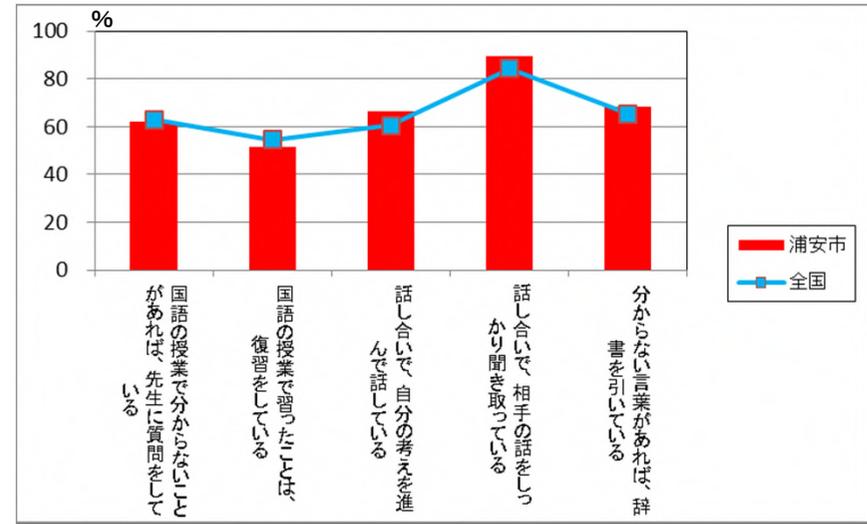
(単位%)

質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	62	63
国語の授業で習ったことは、復習をしている	52	55
話し合いで、自分の考えを進んで話している	67	61
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	90	84
分からない言葉があれば、辞書を引いている	69	65

★上位層と下位層の差

(単位%)

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	65	59	55	10
国語の授業で習ったことは、復習をしている	54	47	48	6
話し合いで、自分の考えを進んで話している	71	64	55	16
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	92	87	84	8
分からない言葉があれば、辞書を引いている	75	64	52	23



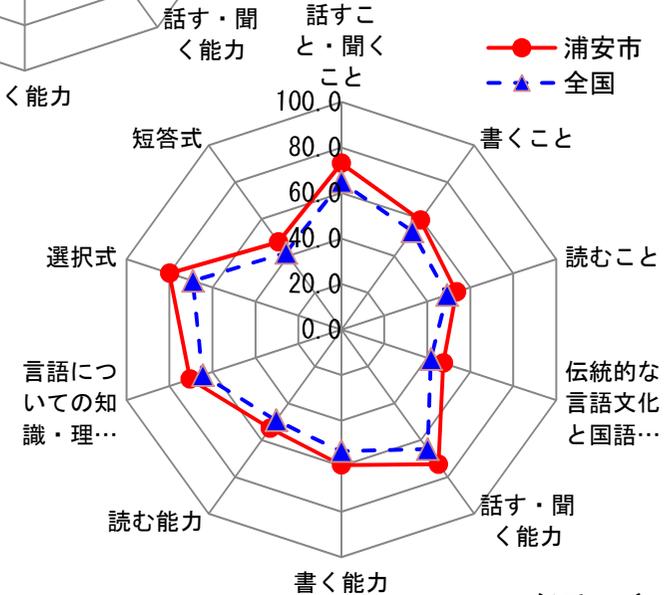
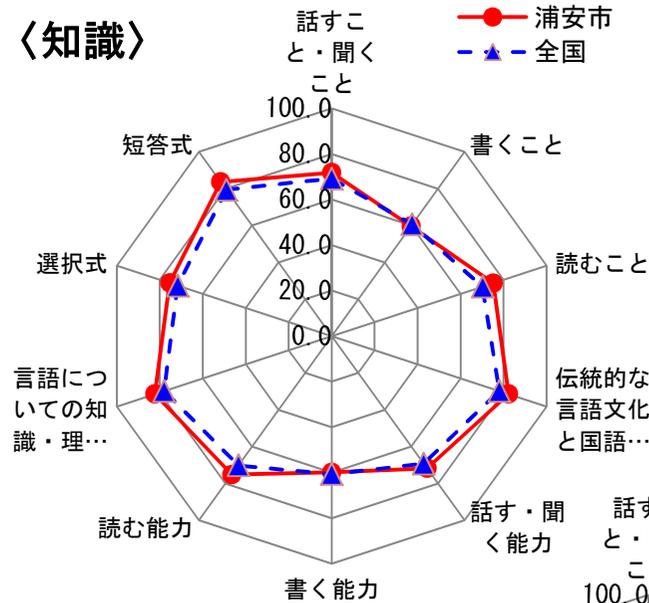
結果
について

「話し合いで、自分の考えを進んで話している」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」が昨年度同様、全国の結果を上回っています。また、「分からない言葉があれば、辞書を引いている」も上回っています。「国語の授業で習ったことは、復習をしている」が全国よりも低く、上位層と下位層の差が少なくなっています。

平成29年度 **小6国語** (全国学力テスト)

平均正答率 (%)		〈知識〉		〈活用〉	
		浦安市	全国	浦安市	全国
教科全体		79	75	64	58
領域別	話すこと・聞くこと	72	69	73	65
	書くこと	60	61	60	53
	読むこと	75	70	54	49
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82	78		
観点別	国語への関心・意欲・態度			48	42
	話す・聞く能力	72	69	73	65
	書く能力	60	61	60	53
	読む能力	75	70	54	49
	言語についての知識・理解・技能	82	78		
問題形式別	選択式	75	72	70	65
	短答式	84	79	80	69
	記述式			48	42

〈知識〉

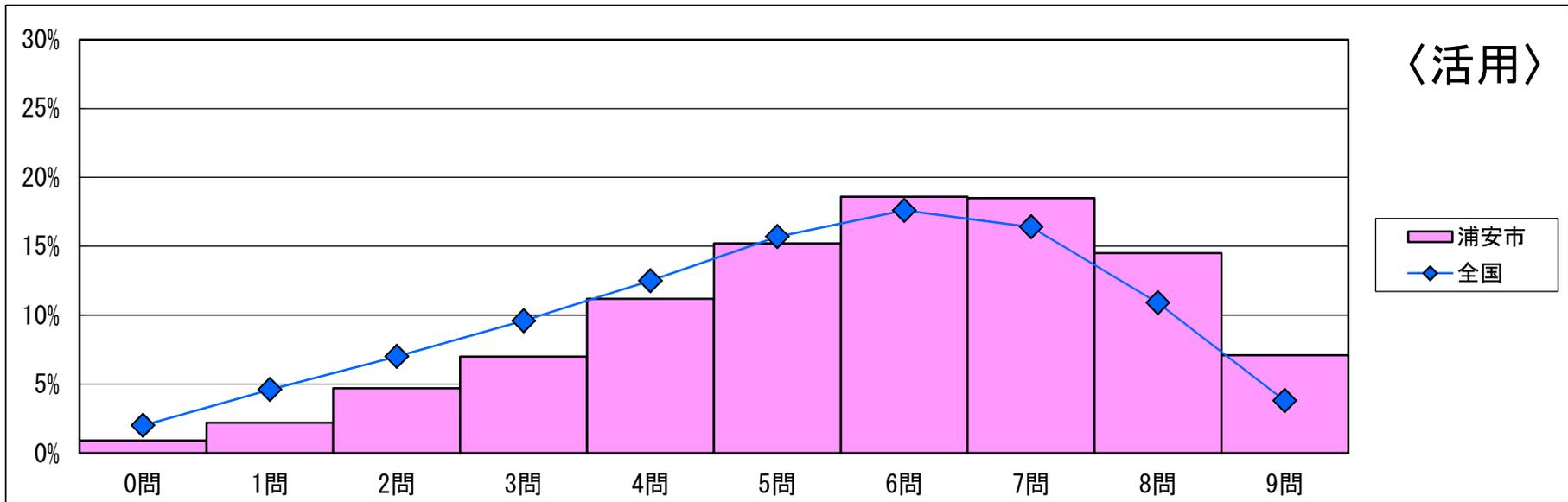
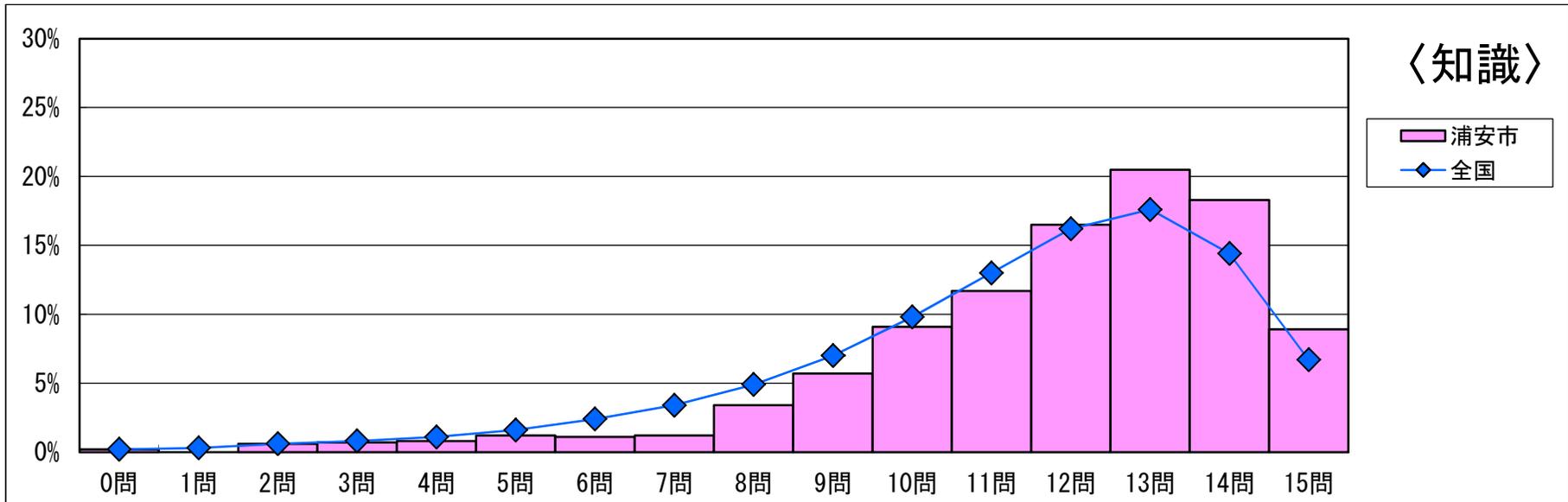


〈活用〉

概要

教科全体の正答率は、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っています。また、ほとんどの観点・領域においても、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っていますが、「知識」における「書くこと」「書く能力」については、全国値をわずかに下回っています。

平成29年度 小学6年生国語 正答率度数分布



度数分布について

正答数度数分布を見ると、「知識」では12問以上（正答率80%以上）、「活用」では6問以上（正答率60%以上）の児童の割合が、全国を上回っています。また、「知識」の4問以上11問以下（正答率20%以上80%未満）、「活用」の5問以下（正答率60%未満）の児童の割合は、全国を下回っています。

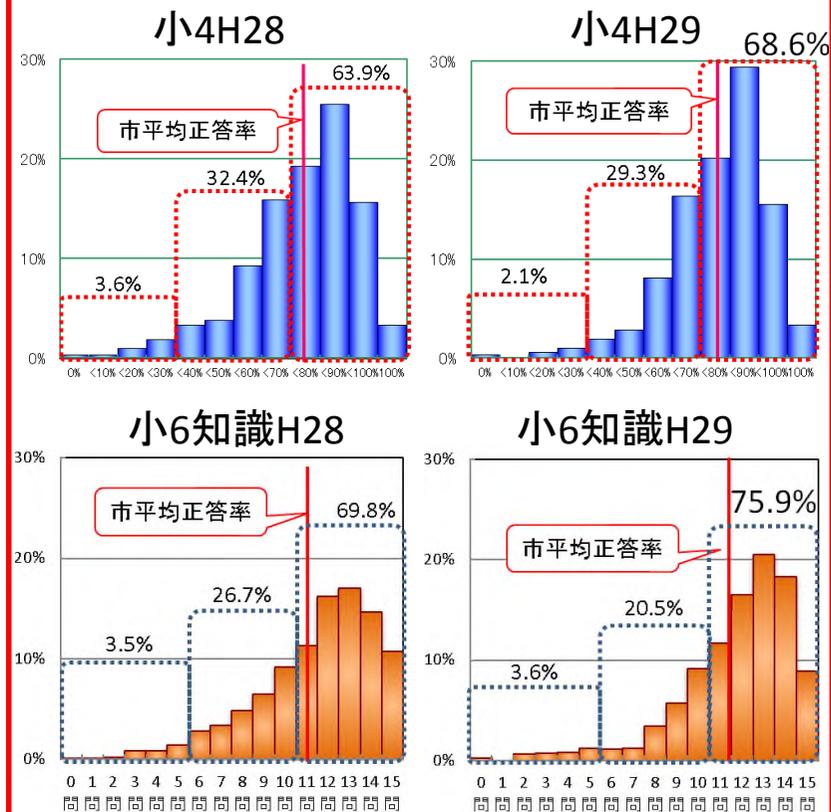
<優れている点・改善が見られた点>

【活用問題の正答率が全国を上回っている】

表現力を見る設問の正答率(記述式)

学年	設問	浦安 (%)	全国 (%)
4年	話し合いの内容を聞き取り、内容に合った文章になるように、空欄にふさわしい言葉を入れる。	50.4	43.4
	表と文章を読み取って、適切な言葉を補って文を書く。	58.2	47.9
6年	文章中の言葉を使って、限られた字数で自分の意見をまとめる。	80.0	69.2
	話し合いについての2つの資料を読み取り、3つの条件に合った内容で自分の考えをまとめて書く。	55.6	48.4

【正答率の割合が高い児童が増加】



活用問題の正答率は、4年生・6年生ともに記述式の設問で全国の正答率を大きく上回っています。文章をしっかりと読み取り、決まった条件の中で自分の考えをまとめる力が身についてきていると考えられます。また、正答率が高い児童の割合は、平成28年度に比べて増加しています。

<課題が見られる点>

手紙の構成の問題

	設問	浦安 (%)	全国 (%)
6年	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。	38.1	41.6

「漢字・ローマ字」の問題

正答率が5割に満たない問題

	設問	浦安 (%)	全国 (%)
4年	ローマ字を読む。「hanabi」	46.6	41.4
	ローマ字を書く。「すみれ」	49.2	46.8
6年	漢字を書く。「参加たいしょう」	48.9	42.0

<指導改善例>

【他教科との関連】

- 国語の学習で学んだことを、他教科の言語活動に積極的に取り入れ、内容の定着を促す。
例)・社会科見学やキャリア教育でお世話になった方に手紙を書く。
・校外学習で学んだことを新聞や俳句にまとめる。

【日常の授業で心がけたい取組】

- 「基礎・基本」の徹底を図る取組
 - ・教科書の音読を授業内で必ず行う。
(物語や説明文、詩、短歌、俳句など)
 - ・漢字の反復練習の徹底。
 - ・家庭学習での予習・復習を推奨する。
- 学びの「ねらい」が明確な授業づくり
 - ・単元の学習計画を立て、掲示する。
 - ・本時の「めあて」を児童に意識させる。
(教師と一緒に書く、めあてを一斉に読む等)
 - ・授業のまとめを行う。最後に感想を書く。
- 児童のつまずきの的確な把握
- 「ちばっ子チャレンジ100」及び「学びの突破口ガイド」(千葉県教育委員会)の活用

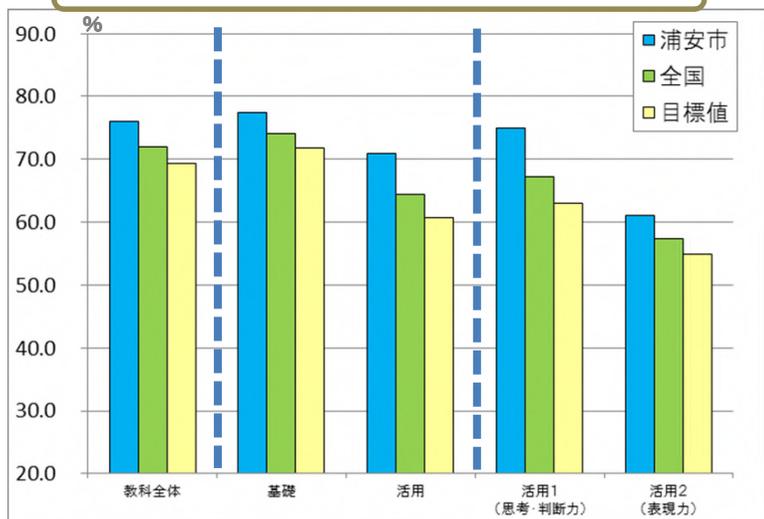
手紙の構成を理解し、後付けを書く問題については、正答率が4割以下と低く、全国の平均値も下回っています。また、4年生のローマ字の問題は、「読む・書く」ともに正答率が5割を下回っています。漢字の「読む・書く」については、ほとんどの問題が高い正答率ですが、正答率が低い問題も見られます。日々の授業の中で個々の児童のつまずきを把握すること、また基礎基本を徹底するために、家庭にも呼びかけながら、繰り返し練習を行うことが大切です。

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		76	72	69
基礎		77	74	72
活用		71	64	61
活用	思考・判断力	75	67	63
	表現力	61	57	55
観点	話す・聞く能力	85	82	77
	書く能力	74	71	67
	読む能力	76	70	65
	言語についての知識・理解・技能	73	70	70
領域	話すこと・聞くこと	85	82	78
	書くこと	73	71	68
	読むこと	78	72	67
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73	70	70

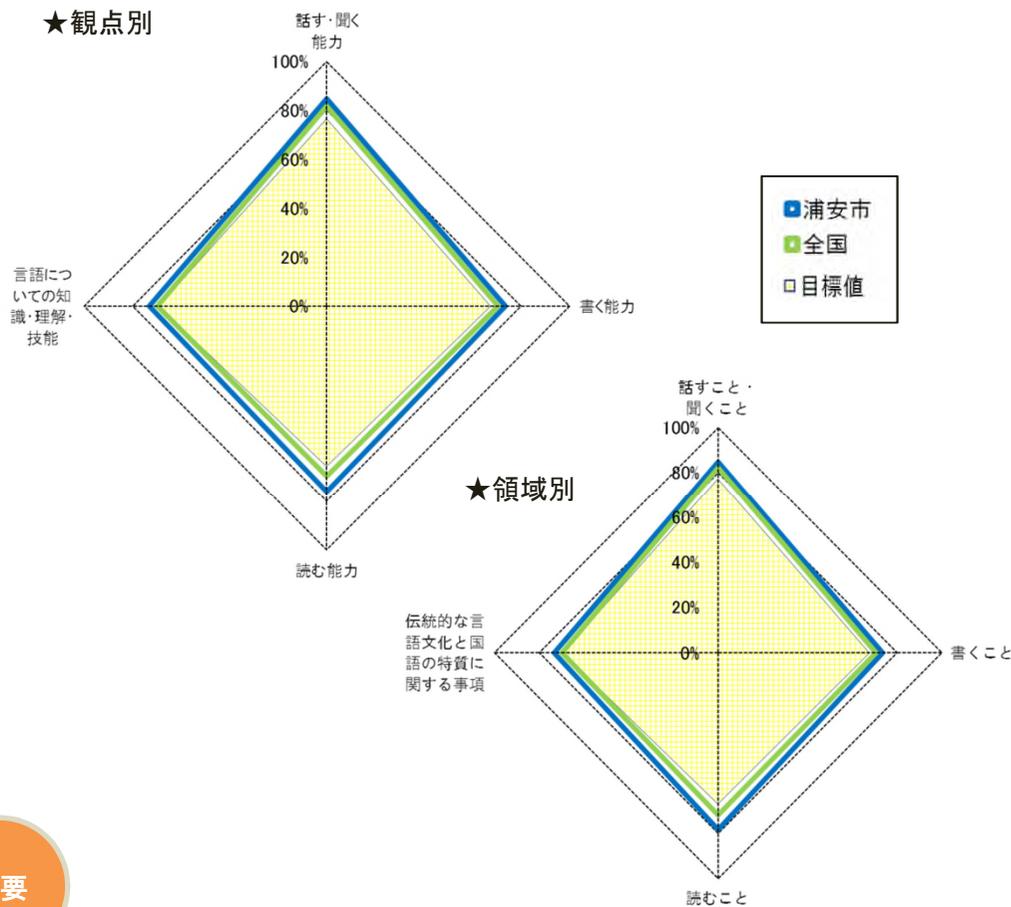
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

教科全体の正答率 (76%) は、全国値 (72%) を4ポイント上回っています。基礎・活用ともに目標値を5ポイント以上も上回っています。
昨年度同様、すべての領域、観点で全国値、目標値を上回っています。

平成28年度と平成29年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H28年度			H29年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		76	71	69	76	72	69
観点	話す・聞く能力	84	81	78	85	82	77
	書く能力	76	73	71	74	71	67
	読む能力	74	67	64	76	70	65
	言語についての知識・理解・技能	73	68	69	73	70	70
領域	話すこと・聞くこと	84	81	78	85	82	78
	書くこと	79	76	74	73	71	68
	読むこと	74	67	64	78	72	67
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73	68	69	73	70	70

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

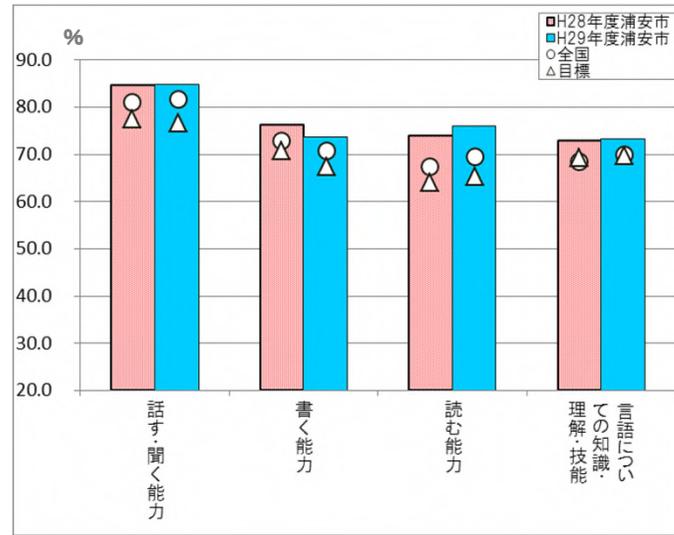
* 領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のH24年度の欄にはH24年度「言語事項」の結果数値を入力しています。

注釈

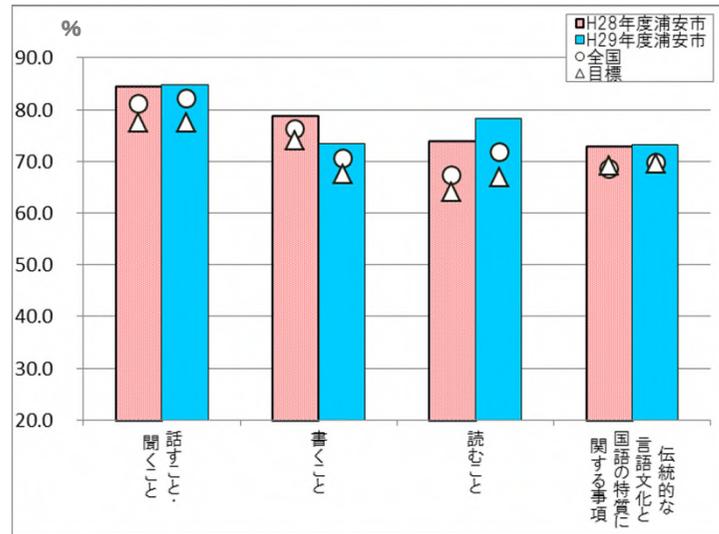
観点別にみると、平成28年度と比較して、全体的に上回っていますが、「書く能力」については2ポイント下回っています。
 領域別も同様で、平成28年度と比較して、「書くこと」については、6ポイント下回っています。

平成28年度と平成29年度 経年比較グラフ

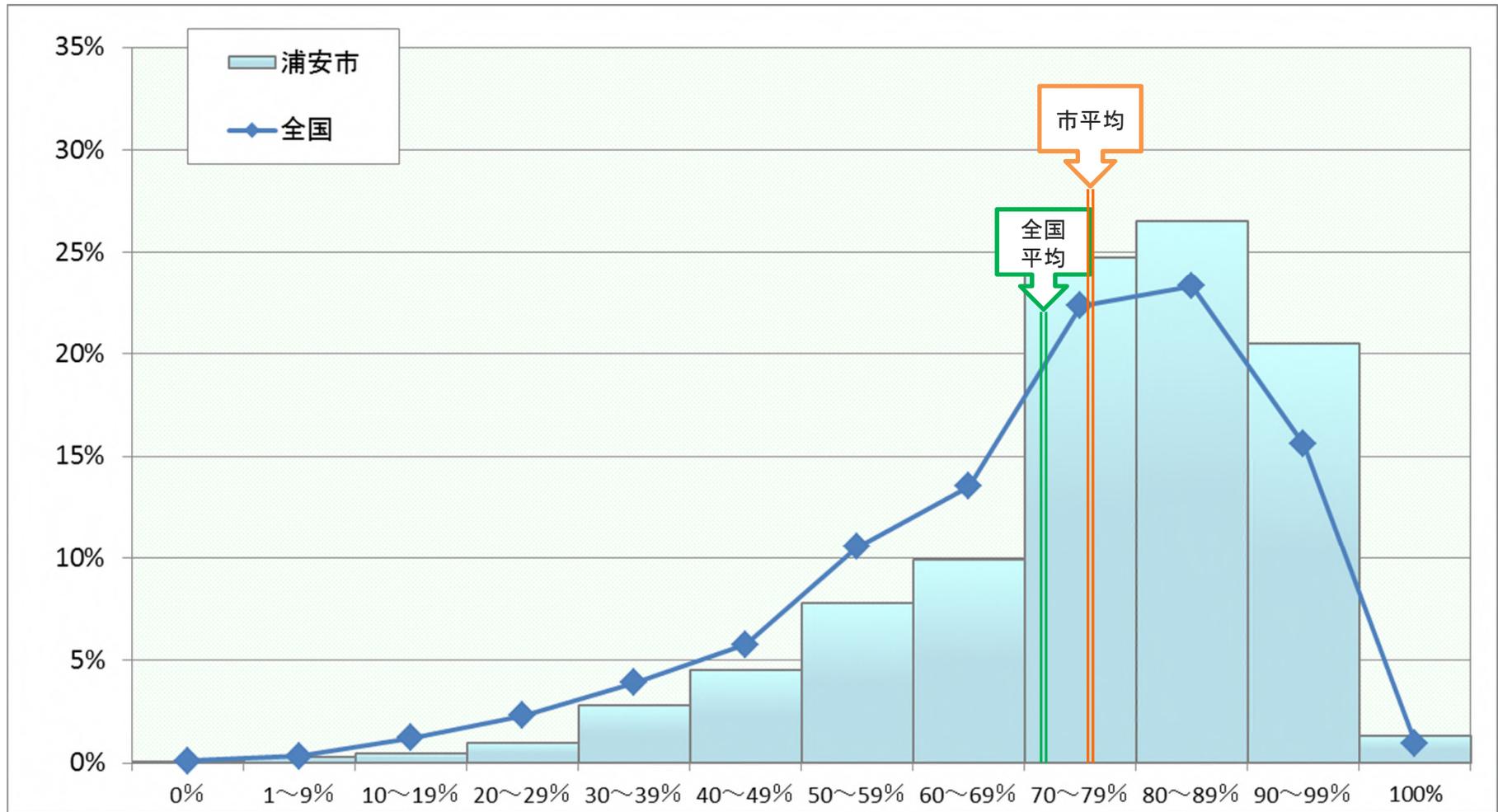
★観点別



★領域別



平成29年度 中学2年生国語 正答率度数分布



度数分布について

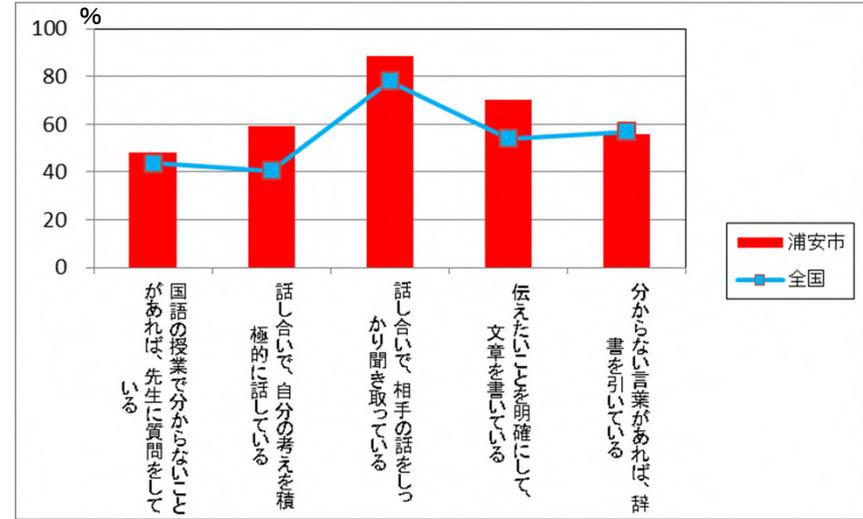
正答率度数分布をみると、全国と比べて70~99%の生徒の割合が特に高くなっており、正答率が70%以上の生徒の割合は全体の7割を超えています。

平成29年度 中学校2年国語 質問紙調査結果

★市全体と全国との比較

(単位%)

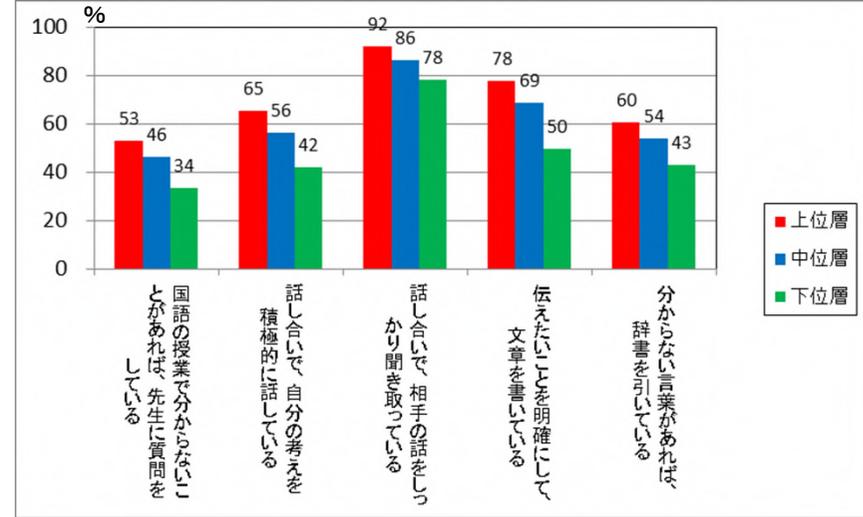
質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	48	44
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	59	41
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	88	78
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	71	54
分からない言葉があれば、辞書を引いている	56	57



★上位層と下位層の差

(単位%)

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	53	46	34	19
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	65	56	42	23
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	92	86	78	14
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	78	69	50	28
分からない言葉があれば、辞書を引いている	60	54	43	17



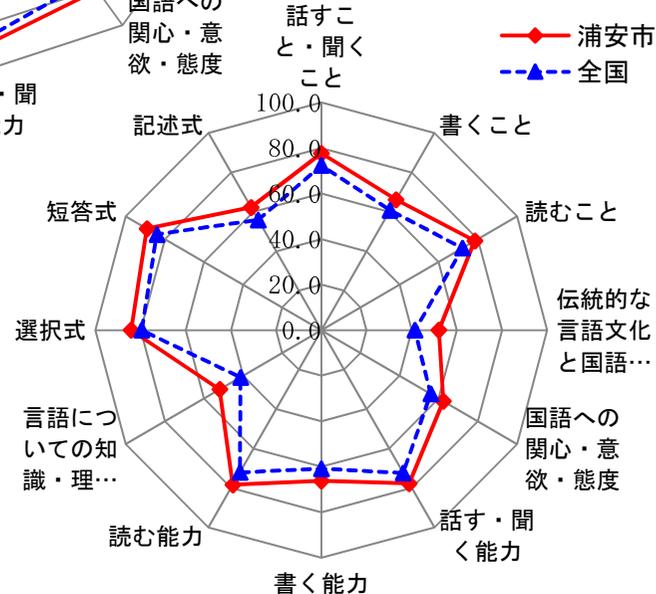
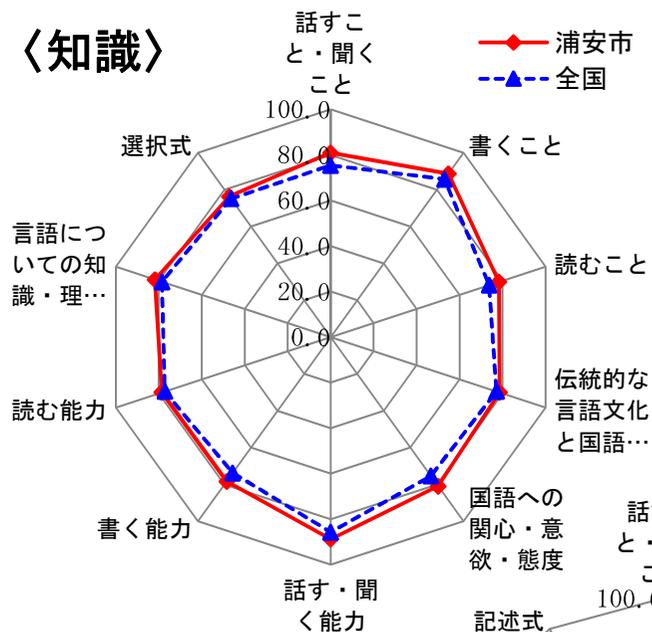
結果
について

全体的に全国の結果を上回り、「分からない言葉があれば、辞書を引いている」以外が特に大きく上回っています。ただ、上位層と下位層の差に着目すると、「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」「伝えたいことを明確にして文章を書いている」に特に大きな差があります。

平成29年度 **中 3 国 語** (全国学力テスト)

平均正答率(%)		〈知識〉		〈活用〉	
		浦安市	全国	浦安市	全国
教科全体		80	77	77	72
領域別	話すこと・聞くこと	81	75	78	72
	書くこと	89	86	66	61
	読むこと	78	74	78	72
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79	77	52	41
観点別	国語への関心・意欲・態度			62	56
	話す・聞く能力	81	75	78	72
	書く能力	89	86	66	61
	読む能力	78	74	78	72
	言語についての知識・理解・技能	79	77	52	41
問題形式別	選択式	82	79	84	80
	短答式	76	75	89	84
	記述式			62	56

〈知識〉

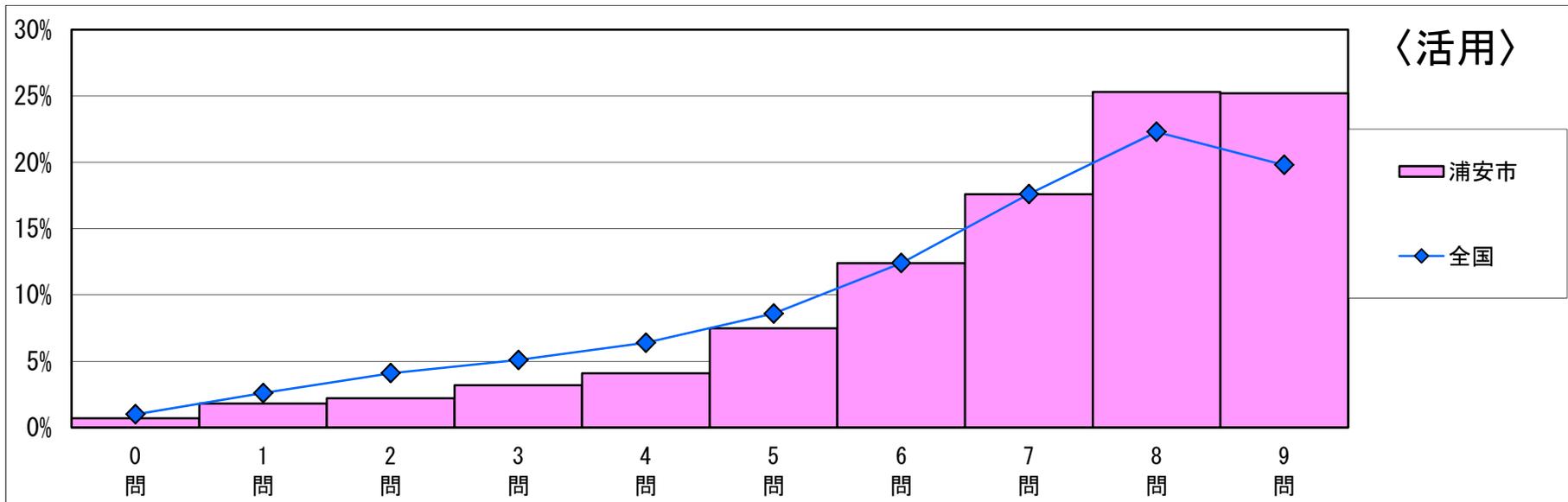
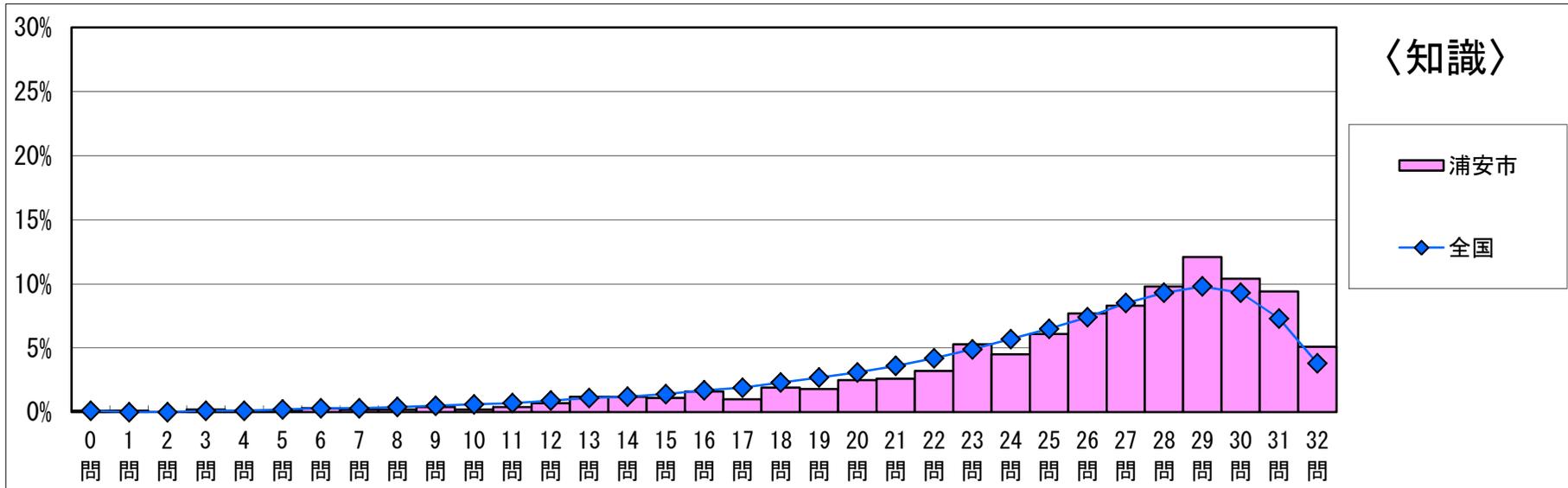


〈活用〉

概要

教科全体の正答率は、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っています。また、観点・領域別に見ても、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っています。特に、「活用」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、全国値を10ポイント以上上回っています。

平成29年度 中学3年生国語 正答率度数分布



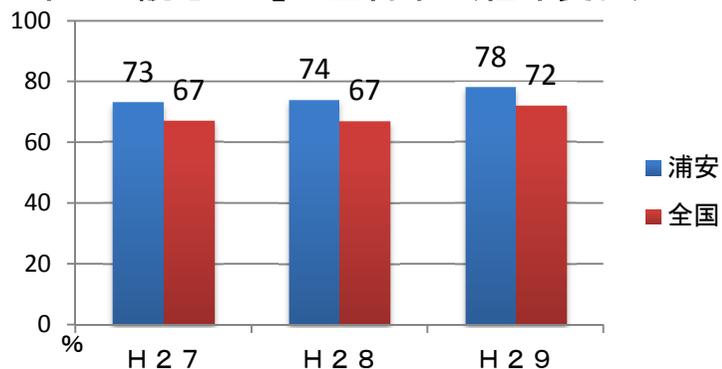
度数分布について

「知識」では28問以上（正答率80%以上）、「活用」では8問以上（正答率80%以上）の児童の割合が、全国を上回っています。一方、「活用」の5問以下（正答率55%未満）は、全国を下回っています。「知識」「活用」については上位層が多くを占めているものの、下位層まで幅広く分布しています。

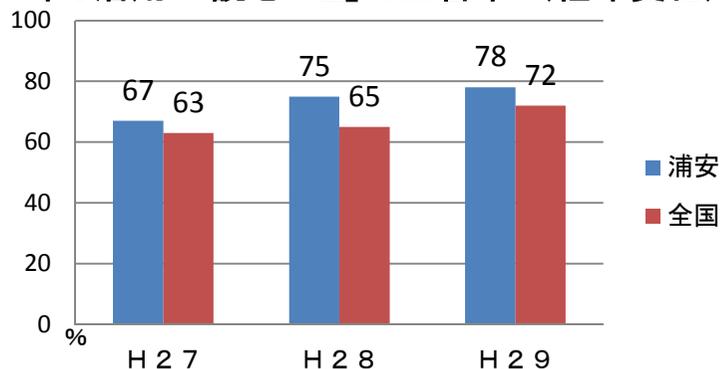
<優れている点・改善が見られた点>

【「読む能力」】

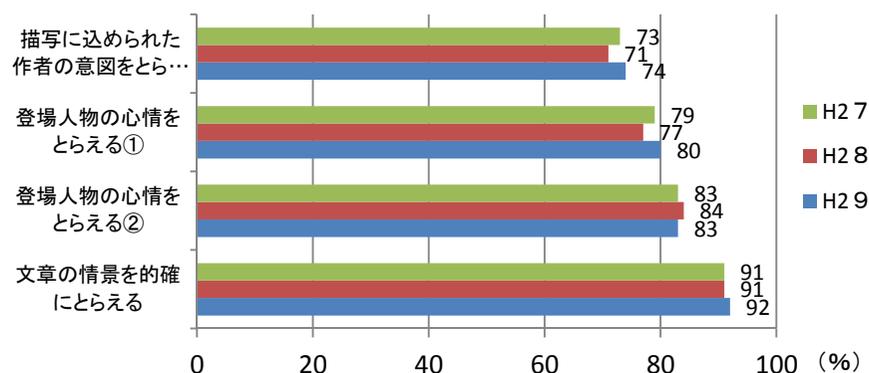
中2「読むこと」の正答率（経年変化）



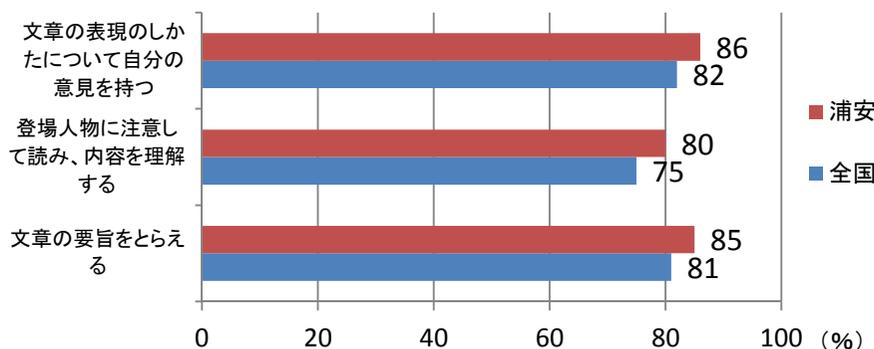
中3活用「読むこと」の正答率（経年変化）



中2「文学作品の読み」の出題のねらいごとの正答率



中3知識「読むこと」問題別正答率



「読むこと」の領域については、全体の正答率が上がっています。中学2年生、3年生ともに6ポイント全国の結果を上回っています。また、2年生では、文学作品の読みにおいて、昨年度正答率が下がった問題についても、改善がみられました。また、3年生の「知識」でも、全ての問題において全国の結果を上回っています。

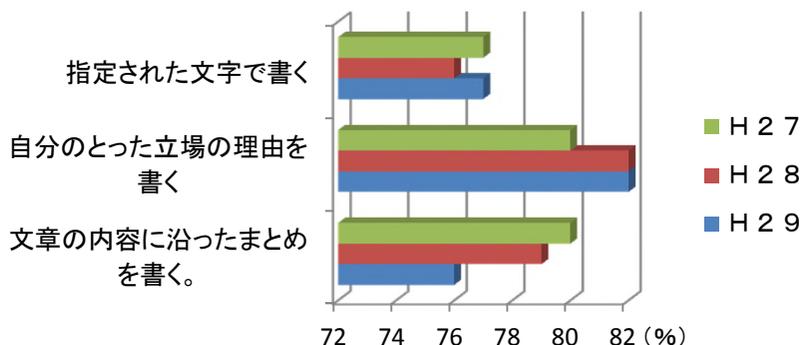
<課題が見られる点>

知識問題

漢字の読み書きの問題の正答率(%)

	設問	浦安	全国
2年	漢字を書く。「つらなる」	51.5	56.9
	漢字を書く。「たがやす」	54.4	55.0
3年	漢字を読む。「鮮やかな色合い」	93.5	94.5
	漢字を書く。「組織のきぼ」	51.9	62.8

中2 作文に関する設問の正答率



漢字の問題は、小学校で学習した漢字が多く出題されていますが、正答率が全国値を下回るものがありました。日常的に漢字を正しく用いる態度と習慣を養う必要があります。また、作文の設問では、特に「まとめを書く」ことの正答率が年々下がっています。日常の様々な場面において「書く活動」を取り入れるだけでなく、根拠を明確にして書くことを意識させたり、書いた文章を読み返し、推敲したりすることが大切です。

<指導改善例>

【日常の授業で心がけたい取組】

○漢字の読み書きを日常的に指導する。

- ・教科書を読むことや読書を通して、漢字一字一字の音訓を理解し、語句としての意味や用法を理解しながら読むように指導する。
- ・「話すこと・聞くこと」の学習や、他教科等の学習の中で同音の漢字や形が似ている漢字などの間違いやすい漢字について、意識させるようにする。
- ・小学校に引き続き、必要に応じて辞書を引くことを習慣付ける。

○授業の実践例として

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)を活用する。

【学校・学年での取組】

○書く活動を多く取り入れ、交流を通して自分の考えを深められる場づくりを

- ・学校で読書感想文コンクールなどに積極的に取り組み書いた作品を読み合う。
- ・「音楽」や「美術」作品についての鑑賞文を書き、作品と共に展示する。

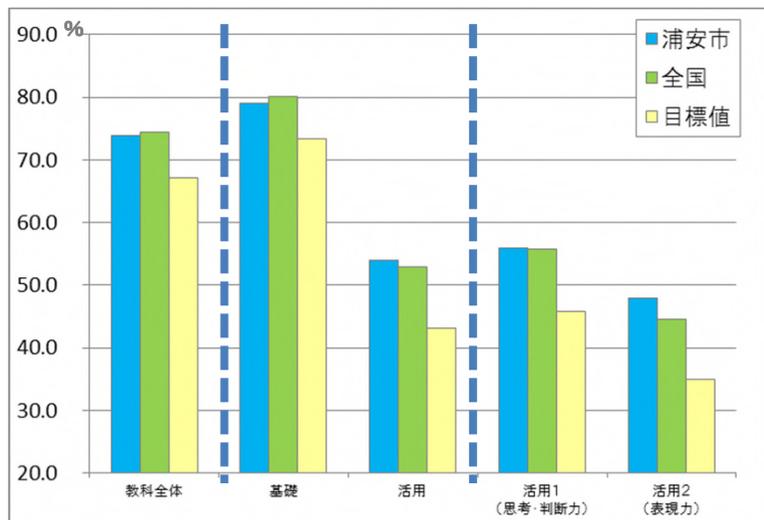
算数・数学結果概要

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		74	74	67
基礎		79	80	73
活用	思考・判断力	54	53	43
	表現力	56	56	46
観点	数学的な考え方	60	61	51
	数量や図形についての技能	77	78	71
	数量や図形についての知識・理解	76	76	68
領域	数と計算	74	75	68
	量と測定	77	76	71
	図形	63	66	58
	数量関係	79	79	67

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

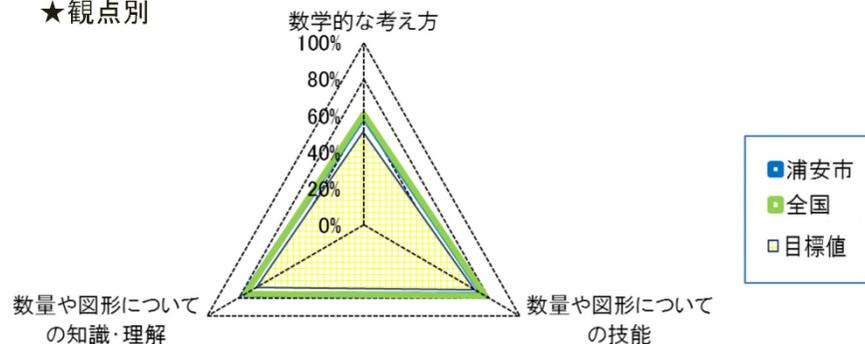
教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



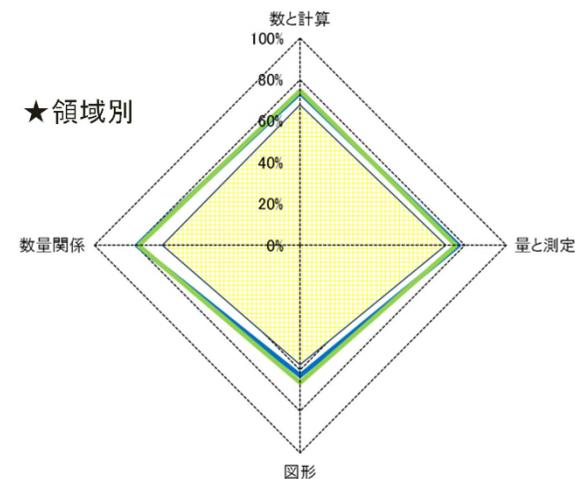
「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

教科全体の正答率は、目標値を超えていて、全国値とほぼ同じ水準です。観点「数量や図形についての知識・理解」、領域「量と測定」「数量関係」以外は全国をやや下回る結果となっています。「数と計算」領域の「2けた×2けた=3けた」「3けた×2けた=4けた」のかけ算を苦手としている児童が多いようです。

平成28年度と平成29年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H28年度			H29年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		73	74	67	74	74	67
観点	数学的な考え方	59	58	51	60	61	51
	数量や図形についての技能	76	77	71	77	78	71
	数量や図形についての知識・理解	74	75	68	76	76	68
領域	数と計算	73	74	68	74	75	68
	量と測定	75	75	71	77	76	71
	図形	62	63	58	63	66	58
	数量関係	77	78	67	79	79	67

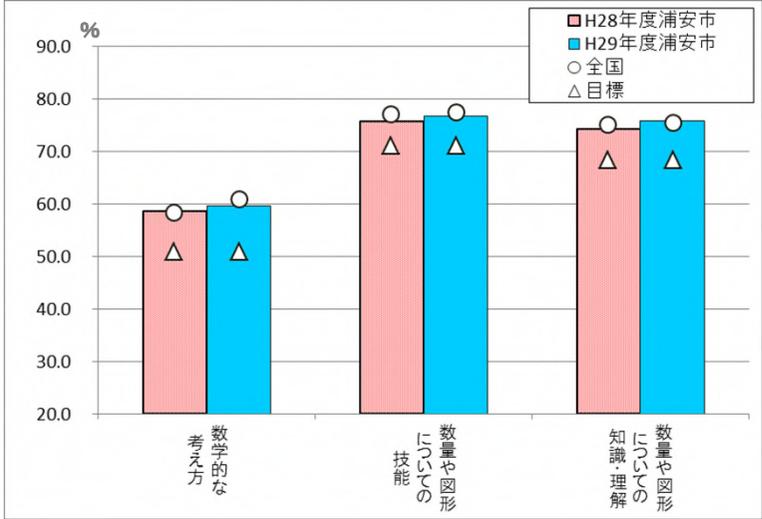
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注釈

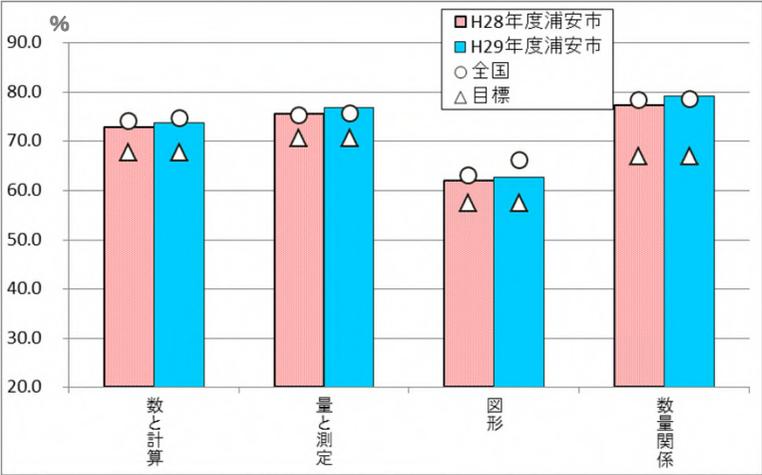
すべての観点において平成28年度を上回っている傾向があります。
 領域別にみても、すべての領域で昨年度を上回っている傾向にあります。

平成28年度と平成29年度 経年比較グラフ

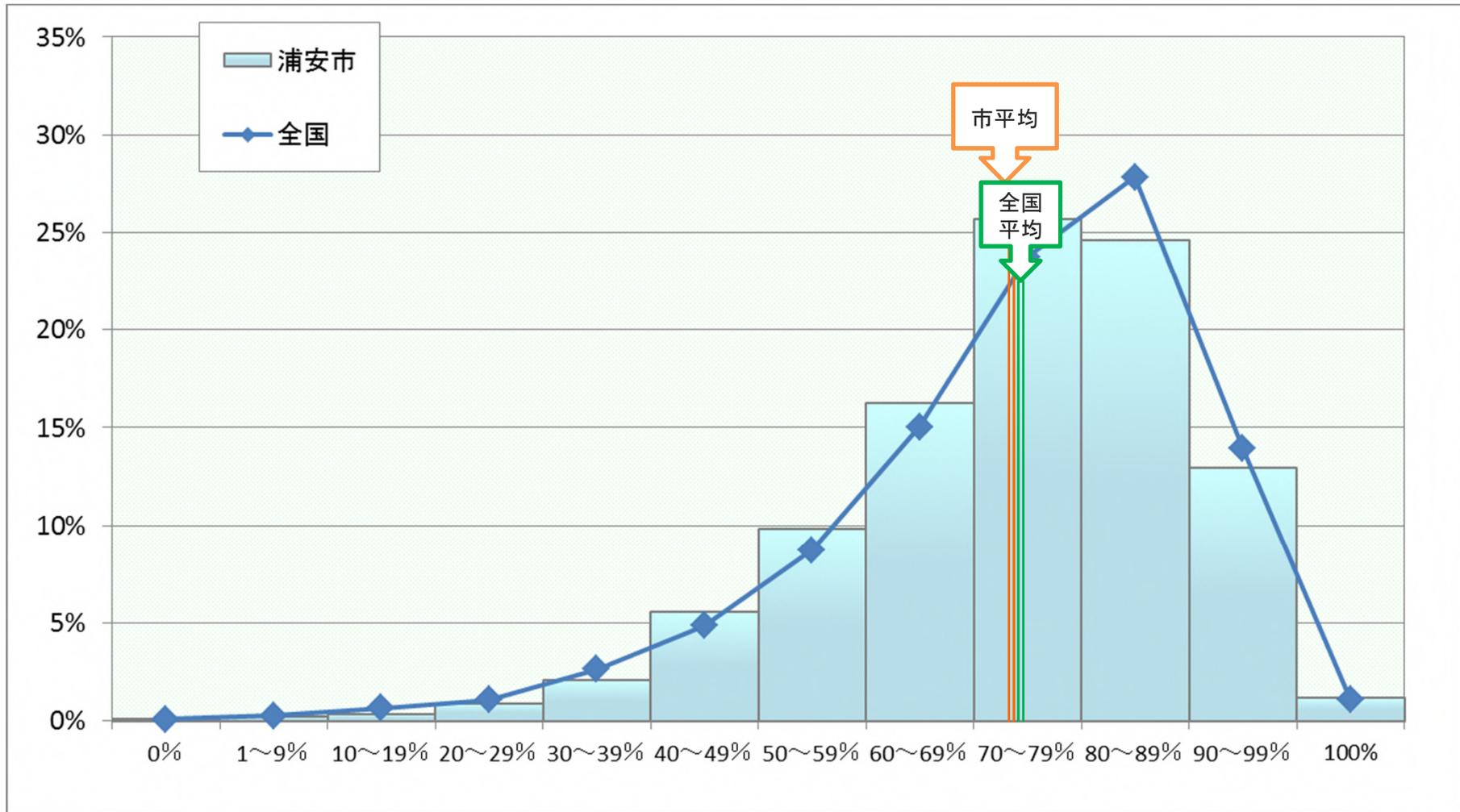
★観点別



★領域別



平成29年度 小学4年生算数 正答率度数分布



度数分布について

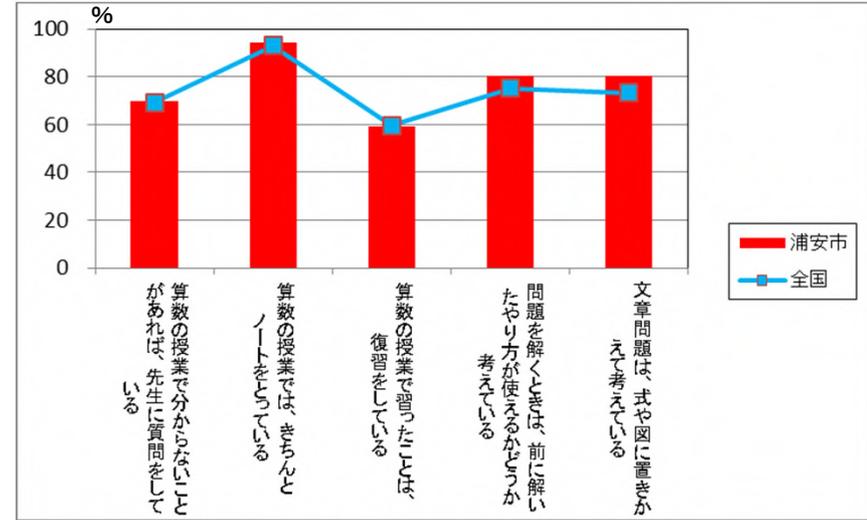
正答率80~89%、90~99%の児童の割合については全国よりもわずかに下回っていますが、60~69%、70~79%の割合は全国の結果を上回っています。
 正答率が70%以上の児童の割合は、全体の65%で、全国（67%）をわずかに下回っています。

平成29年度 小学校4年算数 質問紙調査結果

★市全体と全国との比較

(単位%)

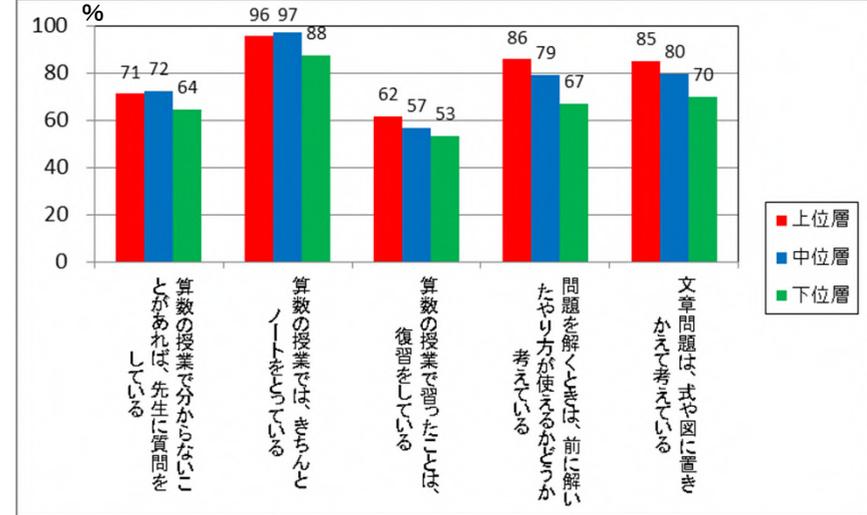
質問	浦安市	全国
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	70	69
算数の授業では、きちんとノートをとっている	94	93
算数の授業で習ったことは、復習をしている	59	60
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	80	75
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	81	73



★上位層と下位層の差

(単位%)

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	71	72	64	7
算数の授業では、きちんとノートをとっている	96	97	88	8
算数の授業で習ったことは、復習をしている	62	57	53	9
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	86	79	67	19
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	85	80	70	15



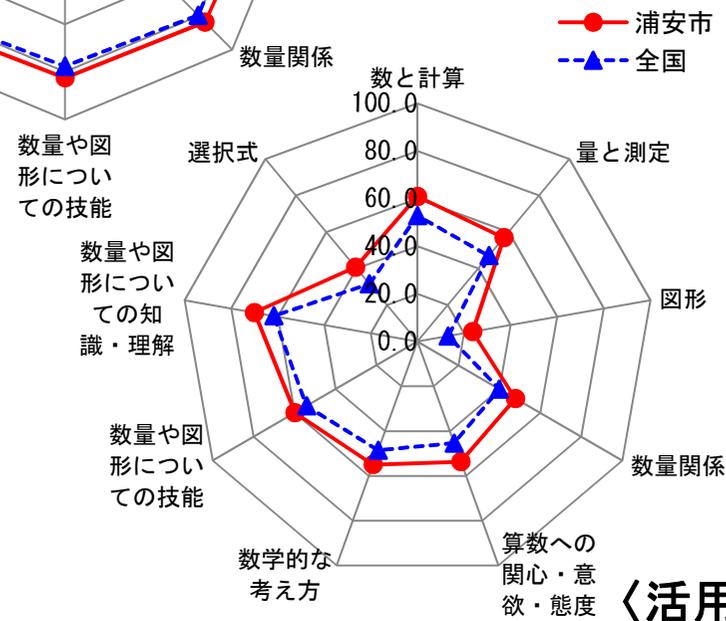
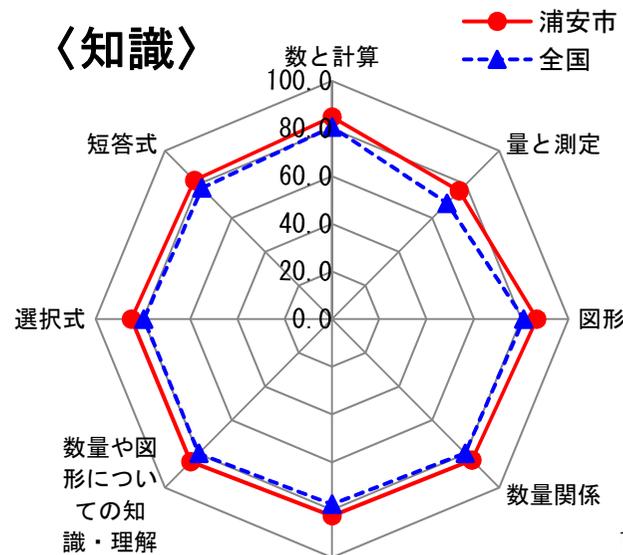
結果 について

「算数の授業で習ったことは、復習をしている」のみ、全国の結果をやや下回っています。また、昨年度同様「問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」について、上位層と下位層の差が大きい項目となっています。

平成29年度 **小6算数** (全国学力テスト)

平均正答率(%)		〈知識〉		〈活用〉	
		浦安市	全国	浦安市	全国
教科全体		84	79	54	46
領域別	数と計算	85	81	61	53
	量と測定	76	69	57	47
	図形	87	81	24	13
	数量関係	84	80	48	40
観点別	算数への関心・意欲・態度				
	数学的な考え方			54	45
	数量や図形についての技能	83	78		
	数量や図形についての知識・理解	85	80	55	49
問題形式別	選択式	85	80	60	54
	短答式	82	78	70	62
	記述式			41	32

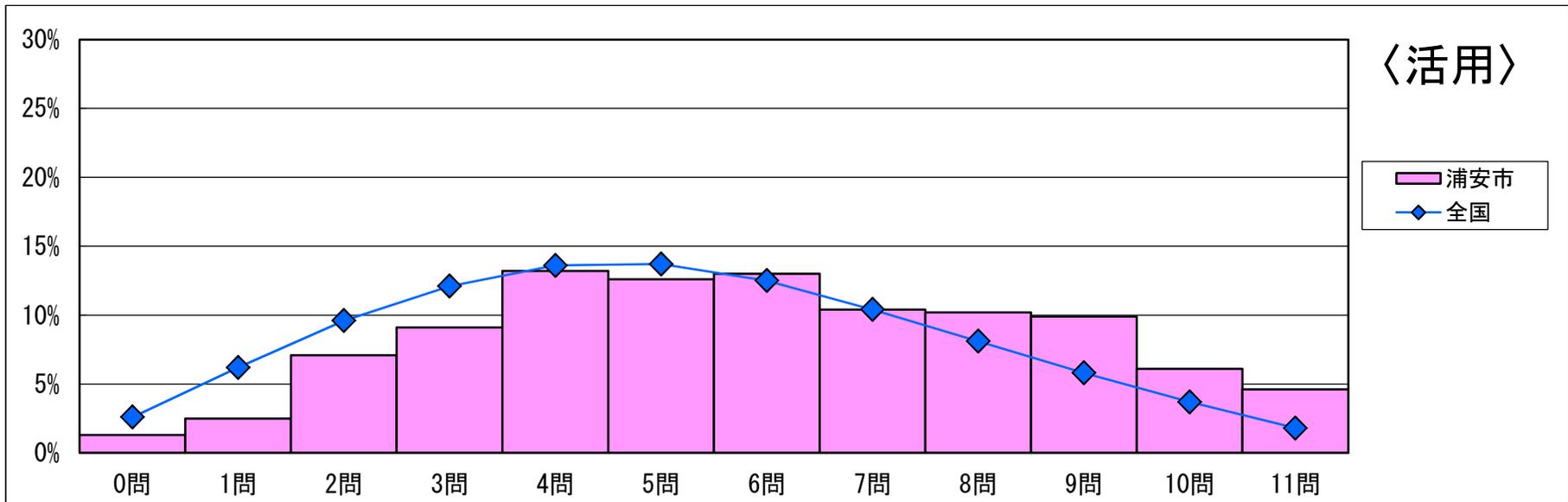
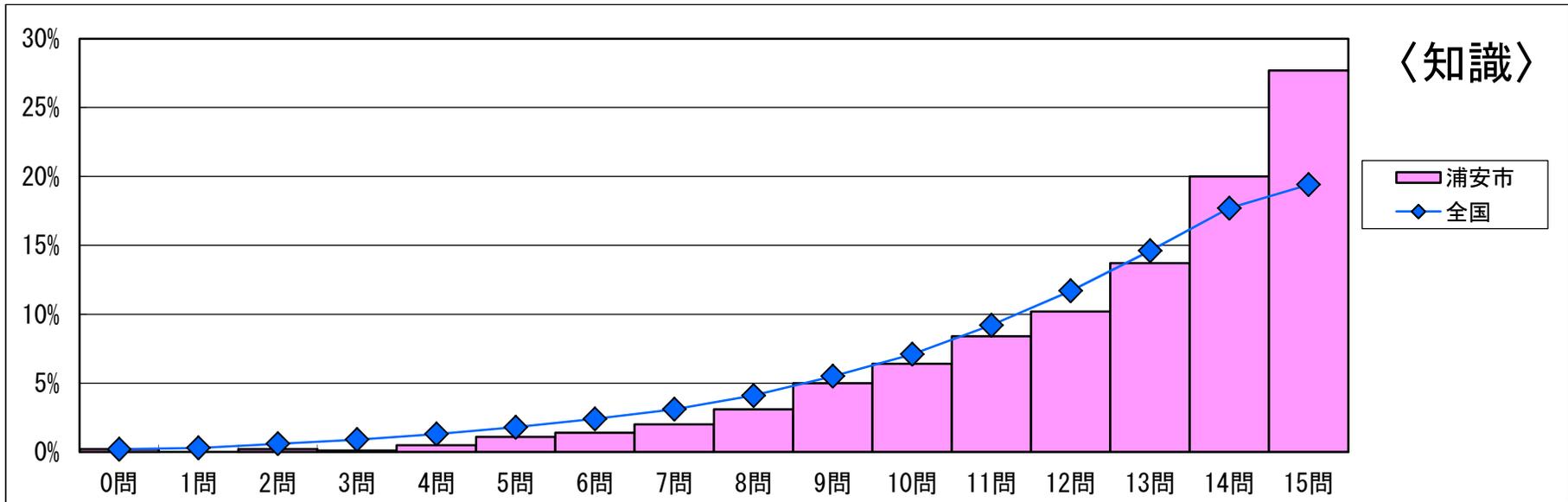
〈知識〉



概要

教科全体の正答率は、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っています。また、観点・領域別に見ても、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っており、特に、領域「量と測定」「図形」の「活用」では、全国値を10ポイント以上上回る結果となっています。

平成29年度 小学6年生算数 正答率度数分布

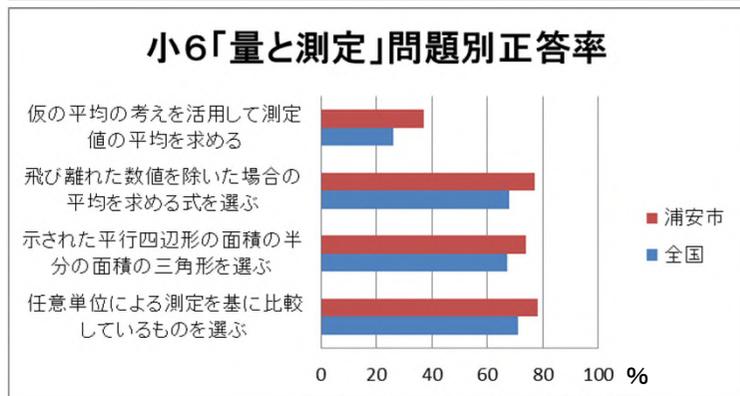
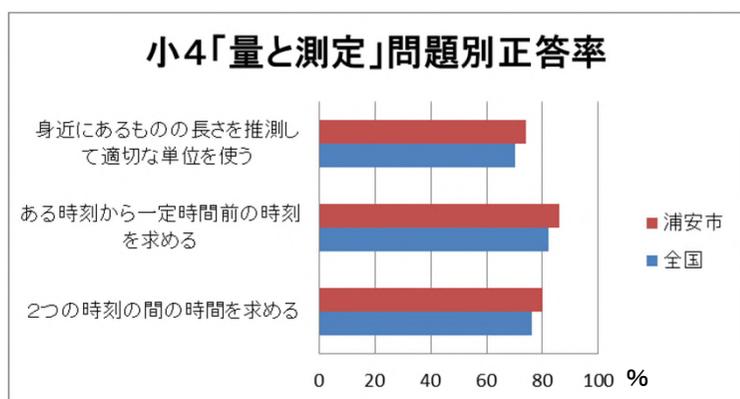


度数分布について

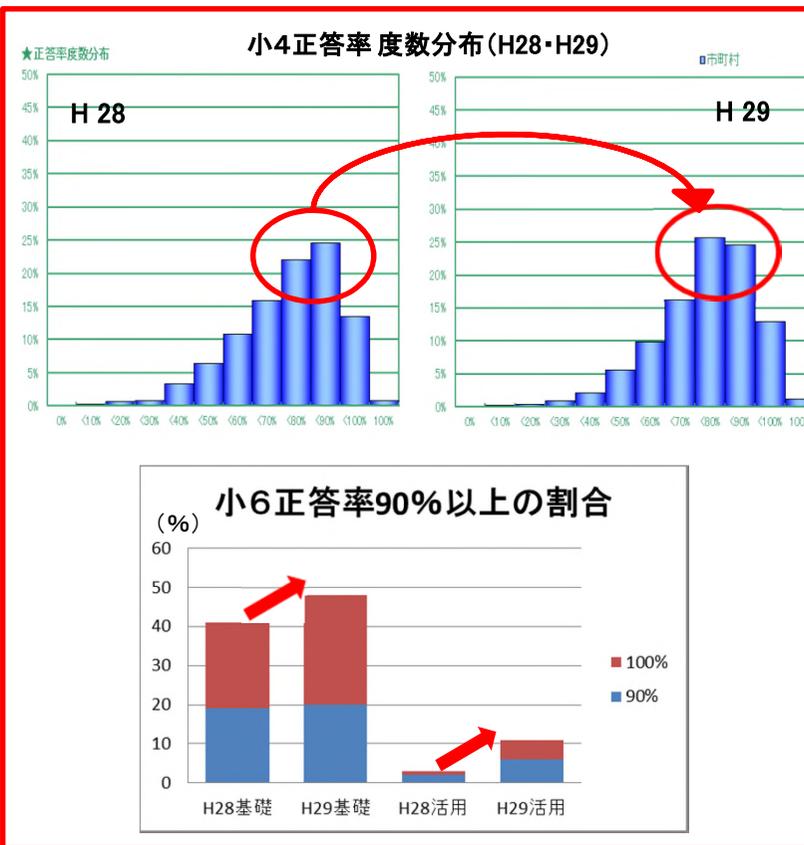
「知識」では14問以上（正答率90%以上）、「活用」では8問以上（正答率70%以上）の児童の割合が、全国を大きく上回っています。また、「知識」の8問以下（正答率60%未満）、「活用」の3問以下（正答率30%未満）の児童の割合は、全国を下回っており、全体的に良好な様子がわかります。

<優れている点・改善が見られた点>

【領域「量と測定」の正答率が全国を上回っている】



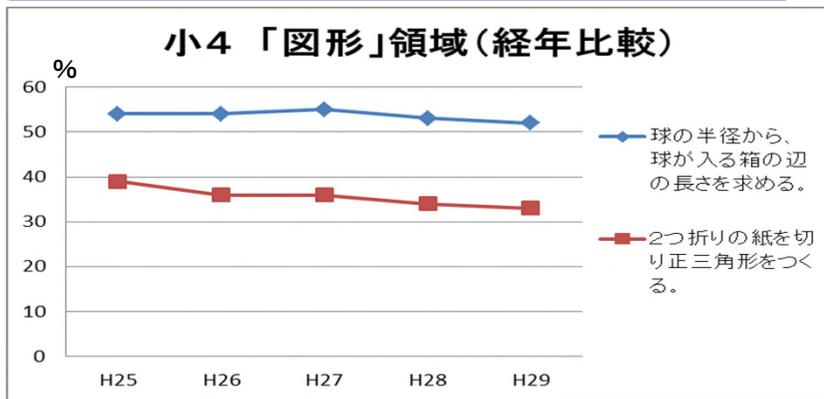
【正答率が高い児童が増加】



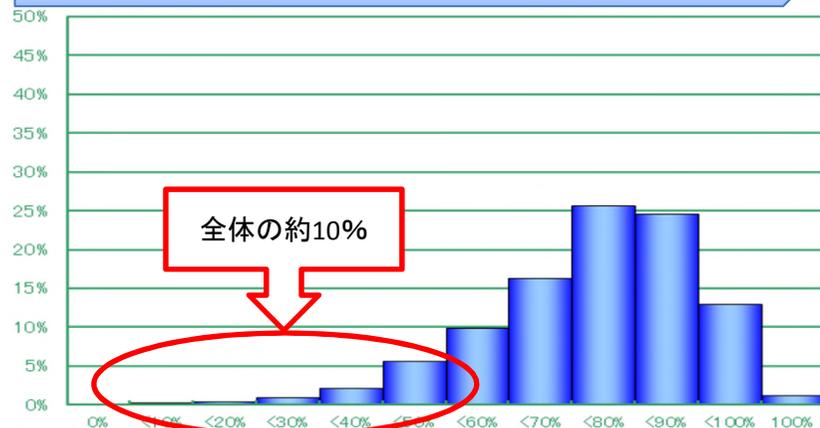
領域「量と測定」の問題の正答率は、全国の正答率を4ポイント以上上回っています。これは、他の領域「数と計算」「図形」「数量関係」に比べて、良好な結果です。また、全体の正答率の高い児童の割合は、平成28年度に比べて増加しています。

< 課題が見られる点 >

「図形」領域を苦手とする児童



正答率が50%未満の児童



「図形」領域を苦手とする児童がいます。特に、「2つ折りの紙を切り正三角形をつくる」問題は、正答率が40%を下回る状況が続いています。具体物を操作する活動や、図画工作科と関連させながら図形の構成を考える活動を取り入れるなどの工夫が必要です。また、正答率が50%未満の児童の割合は全国を下回るものの、およそ10%存在しています。少人数指導や学習形態の工夫を通し、個に応じた、きめ細かな指導が必要です。

< 指導改善例 >

【日常の授業で心がけたい取組】

- 計算の意味と仕方を関連付けて、計算の能力を身につける活動
(例)図や数直線に関連付けながら、式をついたり、結果を考察したりする。
日常の事象に結び付けて考える。
- 操作の結果を予想し、確かめる活動
(例)具体物を切ったり、動かしたり、つなげたりする際に、結果を予想する場を設定する。
- 児童のつまずきの的確な把握

【学校・学年での取組】

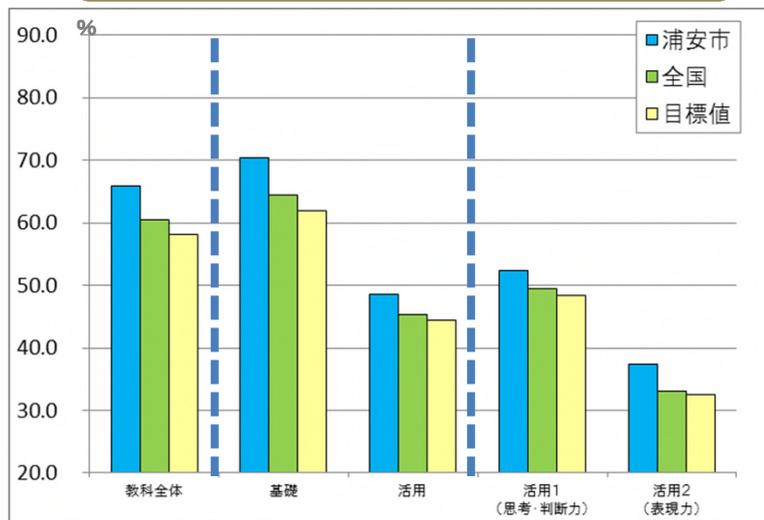
- 少人数教育推進教員の積極的活用
- 少人数指導・学習形態の工夫
(例)習熟場面での習熟度別学習を実施する。
中学年から学級を分割した授業を実施する。
- 「ちばっ子チャレンジ100」及び「学びの突破口ガイド」(千葉県教育委員会)の活用
- 「授業アイデア例」(国立教育政策研究所)の活用

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		66	60	58
基礎		70	64	62
活用	思考・判断力	49	45	44
	表現力	52	49	48
観点	数学的な見方や考え方	51	47	46
	数学的な技能	72	65	62
	数量や図形などについての知識・理解	62	58	56
領域	数と式	74	66	63
	図形	66	62	59
	関数	63	58	59
	資料の活用	47	46	44

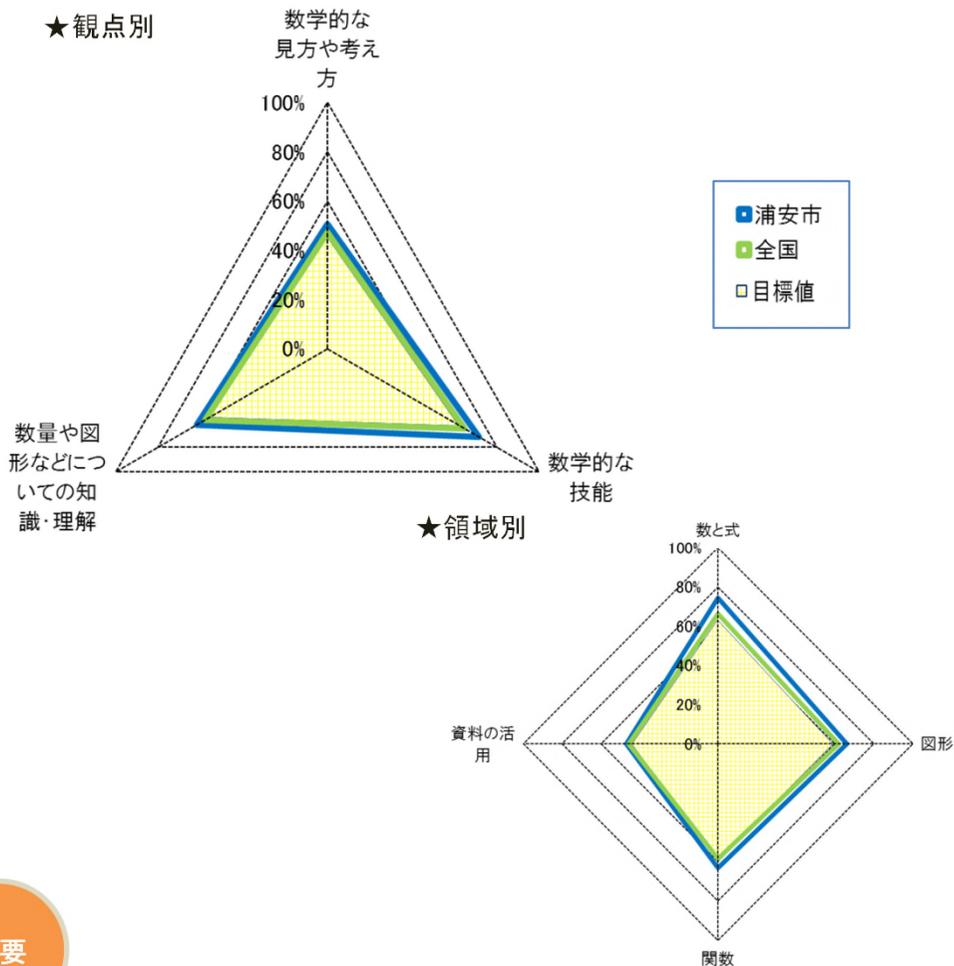
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

教科全体の正答率は、全国値を6ポイント上回っています。
「資料の活用」の領域は、全国値・目標値を上回ったものの、全国値との差は1ポイントとなっています。

平成28年度と平成29年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H28年度			H29年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		66	60	58	66	60	58
観点	数学的な見方や考え方	53	46	46	51	47	46
	数学的な技能	72	64	62	72	65	62
	数量や図形などについての知識・理解	62	57	56	62	58	56
領域	数と式	74	66	63	74	66	63
	図形	67	61	59	66	62	59
	関数	63	58	59	63	58	59
	資料の活用	47	45	44	47	46	44

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

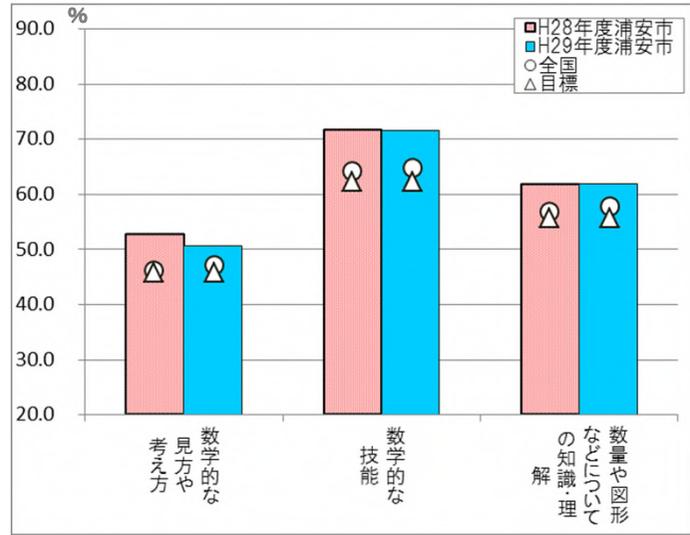
* 学習指導要領の改訂に伴い、H24年度とH25年度とでは観点や領域区分が異なっています。観点「数学的な技能」のH24年度の欄には、H24年度「数学的な表現・処理」の結果数値を、領域「関数」のH24年度の欄にはH24年度「数量関係」の結果数値をそれぞれ入力しています。

注釈

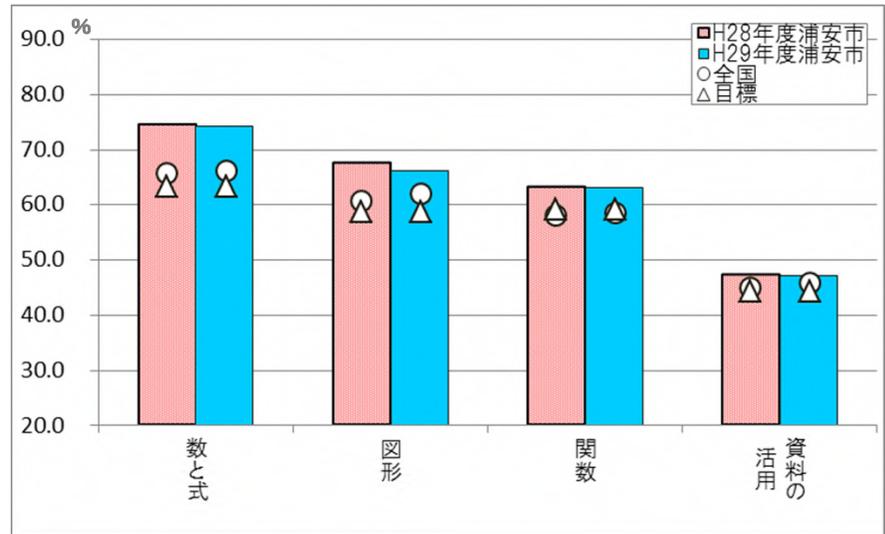
観点別にみると、平成28年度と比較して、すべての観点においてほぼ同じ水準で移行しています。
 領域別においても、観点別と同様に、すべての観点において、昨年度と同じ水準を保っています。

平成28年度と平成29年度 経年比較グラフ

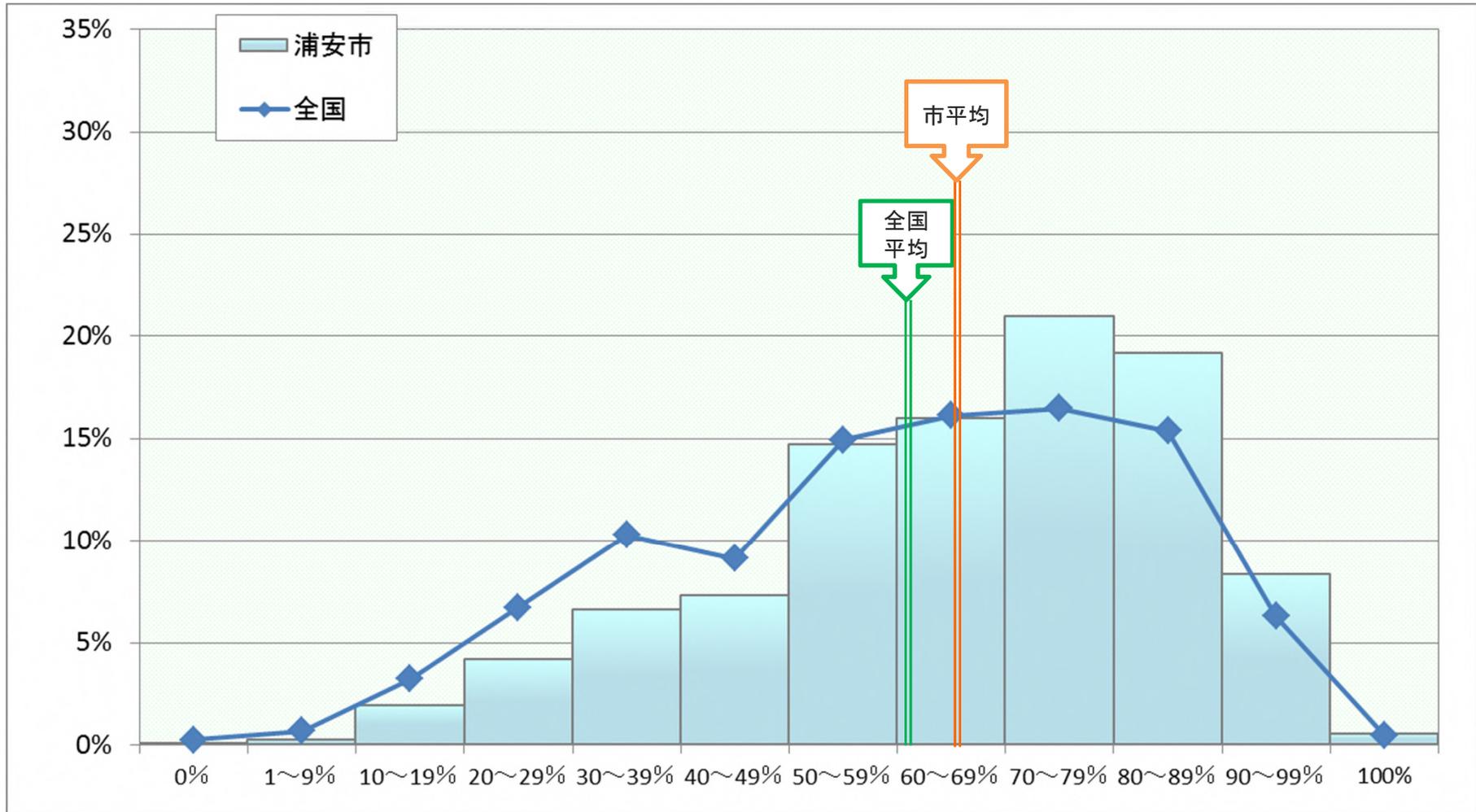
★観点別



★領域別



平成29年度 中学2年生数学 正答率度数分布



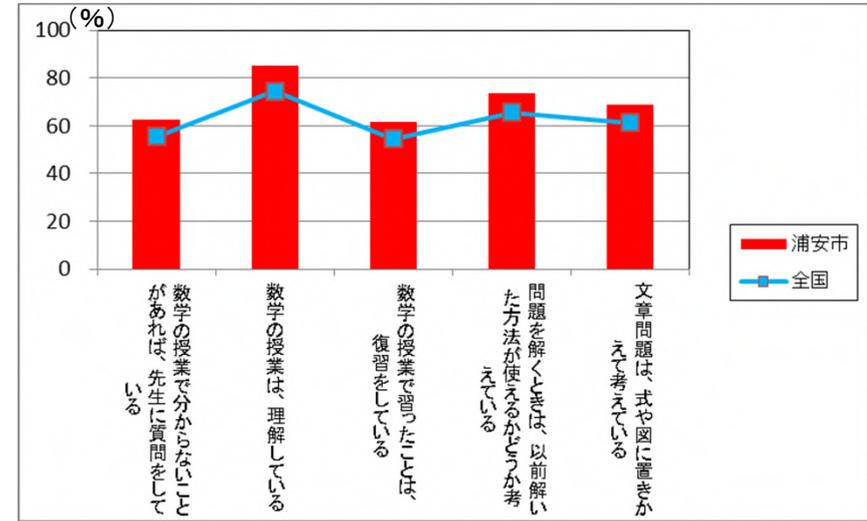
度数分布について

正答率度数分布をみると、全国の二極化傾向に比べて、なだらかな山型になっています。正答率が70%以上の生徒の割合は約5割で、全国の約4割を大きく上回っています。

平成29年度 中学校2年数学 質問紙調査結果

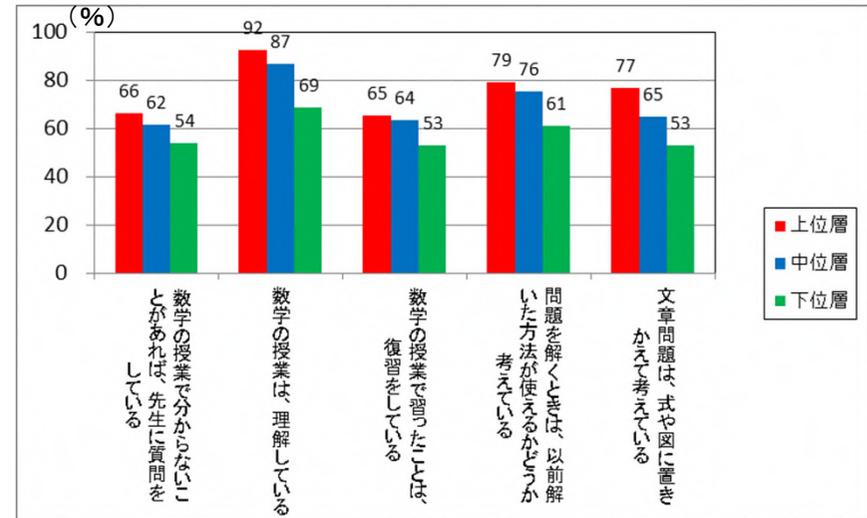
★市全体と全国との比較 (%)

質問	浦安市	全国
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	62	56
数学の授業は、理解している	85	74
数学の授業で習ったことは、復習をしている	62	54
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	74	66
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	69	61



★上位層と下位層の差 (%)

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	66	62	54	12
数学の授業は、理解している	92	87	69	23
数学の授業で習ったことは、復習をしている	65	64	53	12
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	79	76	61	18
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	77	65	53	24



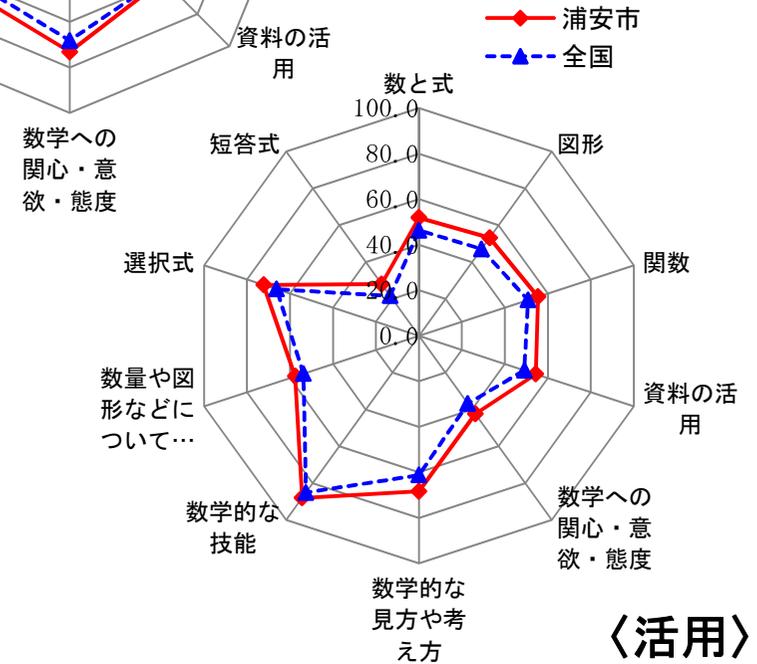
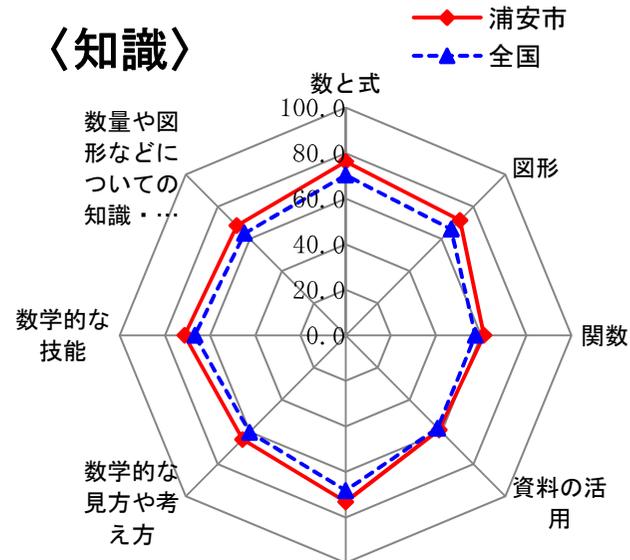
結果
について

全体的に全国の結果を上回り、「数学の授業は理解している」が特に大きく上回っています。上位層と下位層の差に着目すると、「数学の授業は理解している」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」に特に大きな差があります。

平成29年度 **中 3 数 学** (全国学力テスト)

平均正答率(%)		〈知識〉		〈活用〉	
		浦安市	全国	浦安市	全国
教科全体		69	65	54	48
領域別	数と式	76	70	52	46
	図形	72	66	53	47
	関数	61	57	55	51
	資料の活用	59	58	54	49
観点別	数学への関心・意欲・態度				
	数学的な見方や考え方			42	37
	数学的な技能	73	68	68	61
	数量や図形などについての知識・理解	65	60	88	85
問題形式別	選択式	71	67	58	54
	短答式	68	63	72	66
	記述式			28	22

〈知識〉

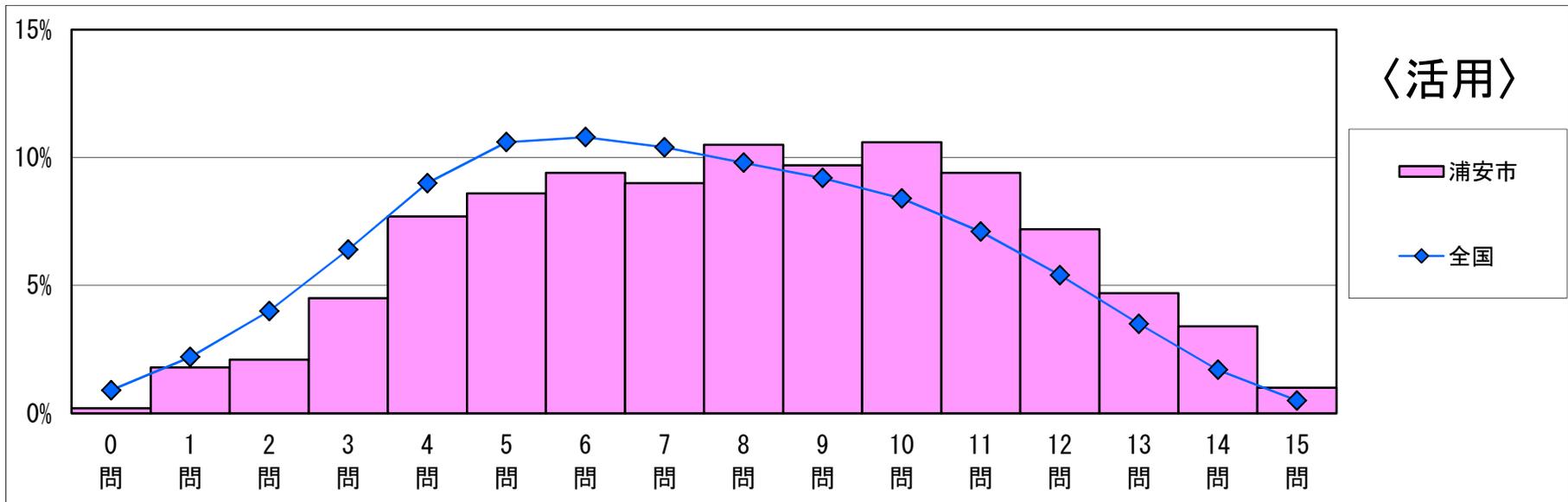
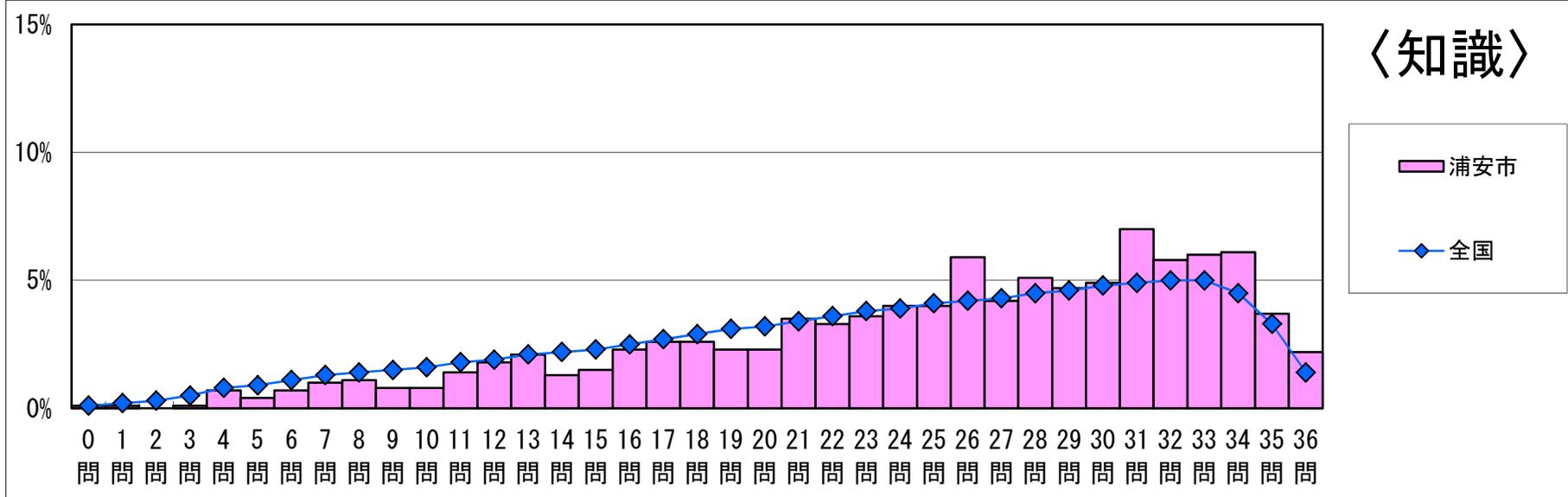


〈活用〉

概要

教科全体の正答率は、「知識」「活用」ともに、全国値を上回っています。また、全ての観点・領域においても、「知識」「活用」ともに、全国値を上回っています。
 領域「資料の活用」の「知識」については、全国値との差は1ポイントとなっています。

平成29年度 中学3年生数学 正答率度数分布



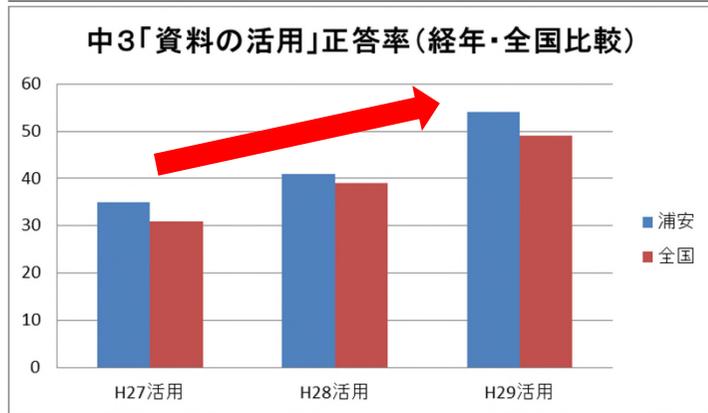
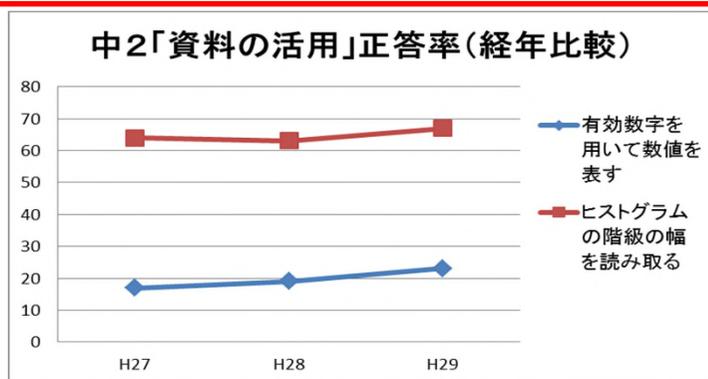
度数分布について

「知識」では正答数26問以上（正答率70%以上）、「活用」では正答数8問以上（正答率53%以上）の生徒の割合が全国の結果を上回っています。特に「活用」において、分布の山の中心が、全国に比べて正答数が高い方に寄っています。

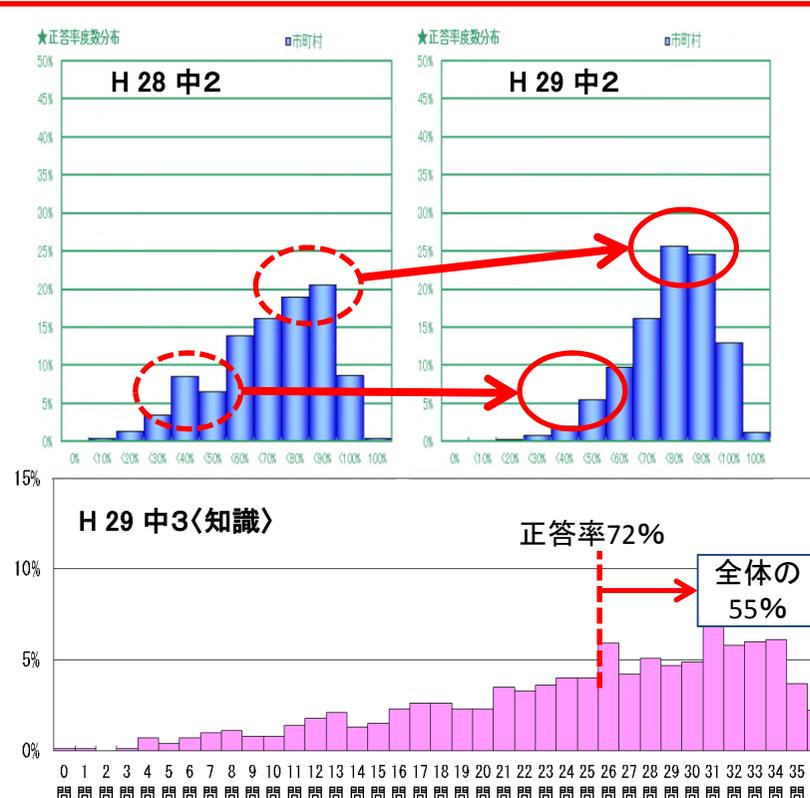


<優れている点・改善が見られた点>

【「資料の活用」が上昇傾向】



【二極化傾向の解消】



昨年度に引き続き、「資料の活用」領域の正答率が、やや上昇しています。また、昨年度に見られた二極化傾向が、今年度は解消され、中学3年生の<知識>問題では、26問(正答率72%)以上の生徒が全体の55%を占めています。今後も、少人数指導や学習形態の工夫を通し、個に応じた、きめ細かな指導の継続が望まれます。

<課題が見られる点>

無解答率の高かった問題

中3 A問題		正答率(%)	無解答率(%)
4(3)	おうぎ形の弧の長さを求める。	39	19
9	長方形の縦の長さや面積の関係を、「…は～の関数である」の形で表す。	20	19
10(3)	反比例の表から比例定数を求める。	43	19

中3 B問題		正答率(%)	無解答率(%)
1(2)	2つの図形が回転移動によって重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する。	18	16
2(3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を表す式の理由を説明する。	19	19
3(2)	与えられた表やグラフを用いて、経過した日数を求める方法を説明する。	21	28
5(3)	資料の傾向について、理由をグラフの特徴を用いて説明する。	26	27

教科全体の正答率は、「知識」「活用」とともに、全国値を上回っているものの、問題別に見ると、正答率が30%未満のものや、無解答率が15%以上のものも見られます。特に、「説明する」問題は正答率が低く、無解答率が高い状況です。何をどのように説明すればよいかを明確にしたり、問い返したりする場面を設定することが望まれます。

<指導改善例>

【日常の授業で心がけたい取組】

- 見出した性質や方法を振り返ったり、説明したりする活動
(例) 作図の方法について、図形の性質と関連付けて振り返る。
何をどのように説明すればよいかを明確にする。「なぜそう考えたのか」を問い返す。
- 学習場面に応じたICTの活用
(例) 課題把握場面・比較検討場面
- 生徒のつまずきの的確な把握
(例) 自己評価表、座席表の活用
導入問題で整数値以外の値も扱う。
- 「授業アイデア例」(国立教育政策研究所)の活用

【学校・学年での取組】

- 少人数教育推進教員の積極的活用
- 少人数指導・学習形態の工夫
(例) 習熟場面で習熟度別学習を実施する。
小グループによる教え合い活動を設定する。
- 「ちばのやる気」学習ガイド及び県共通評価問題(千葉県教育委員会)の活用
- 「生徒指導の機能を重視したわかる授業づくり」の取組

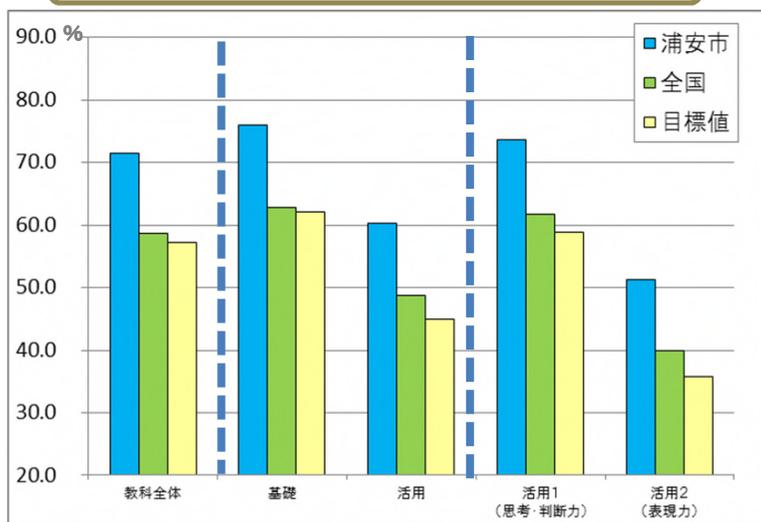
英語結果概要

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		72	59	57
基礎		76	63	62
活用	思考・判断力	60	49	45
	表現力	74	62	59
観点	外国語表現の能力	51	40	36
	外国語理解の能力	62	51	49
	言語や文化についての知識・理解	75	64	62
領域	聞くこと	73	57	56
	読むこと	78	67	66
	書くこと	68	58	56

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

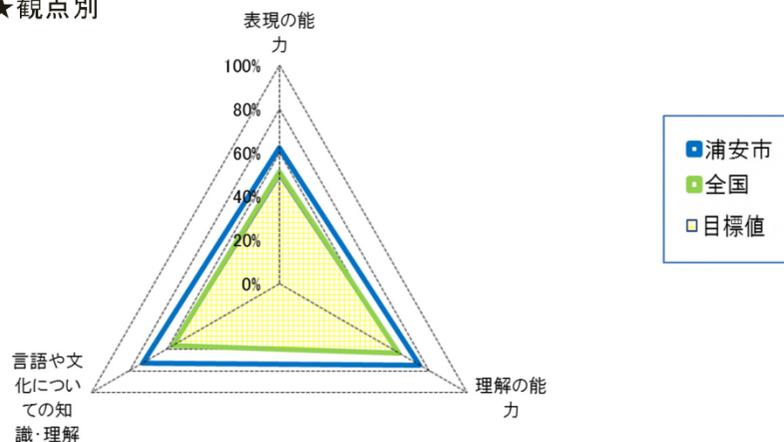
教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



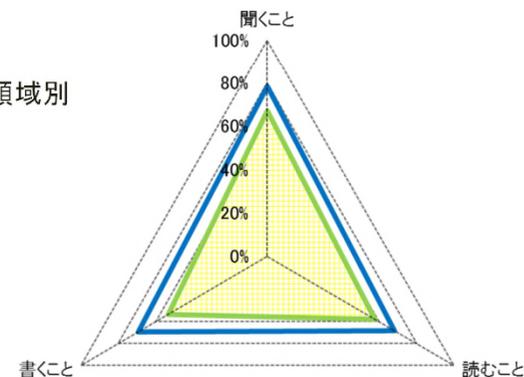
「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

教科全体の正答率 (72%) は、全国値 (59%) を13ポイントと大きく上回っています。
 全ての観点、領域において、全国値・目標値を大幅に上回っています。

平成28年度と平成29年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H28年度			H29年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		71	60	59	72	59	57
観点	外国語表現の能力	61	51	48	62	51	49
	外国語理解の能力	72	62	60	75	64	62
	言語や文化についての知識・理解	74	62	63	73	57	56
領域	聞くこと	74	63	63	78	67	66
	読むこと	68	57	56	68	58	56
	書くこと	71	58	58	69	53	52

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

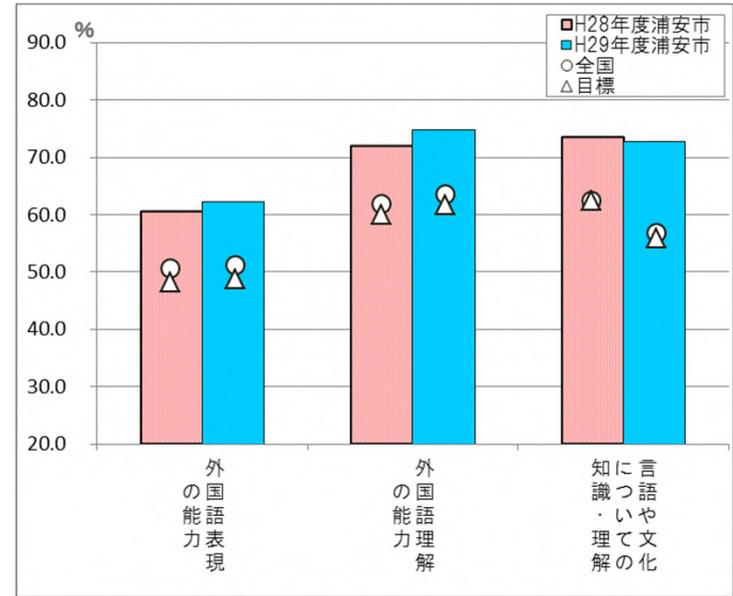
* 学習指導要領の改訂に伴い、H24年度とH25年度とでは観点が異なっています。観点「外国語表現の能力」のH24年度の欄には、H24年度「表現の能力」の結果数値を、「外国語理解の能力」のH24年度の欄にはH24年度「理解の能力」の結果数値をそれぞれ入力しています。

注釈

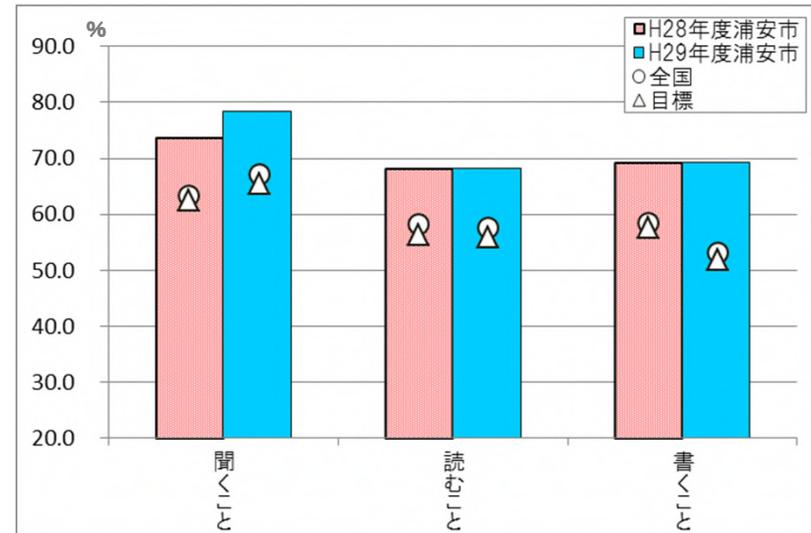
教科全体の正答率は、平成28年度とほぼ同じ水準を保っており、目標値・全国値に対しては大きく上回っています。
観点別では「言語や文化についての知識・理解」が、領域別では「書くこと」が、昨年よりわずかですが下回っています。

平成28年度と平成29年度 経年比較グラフ

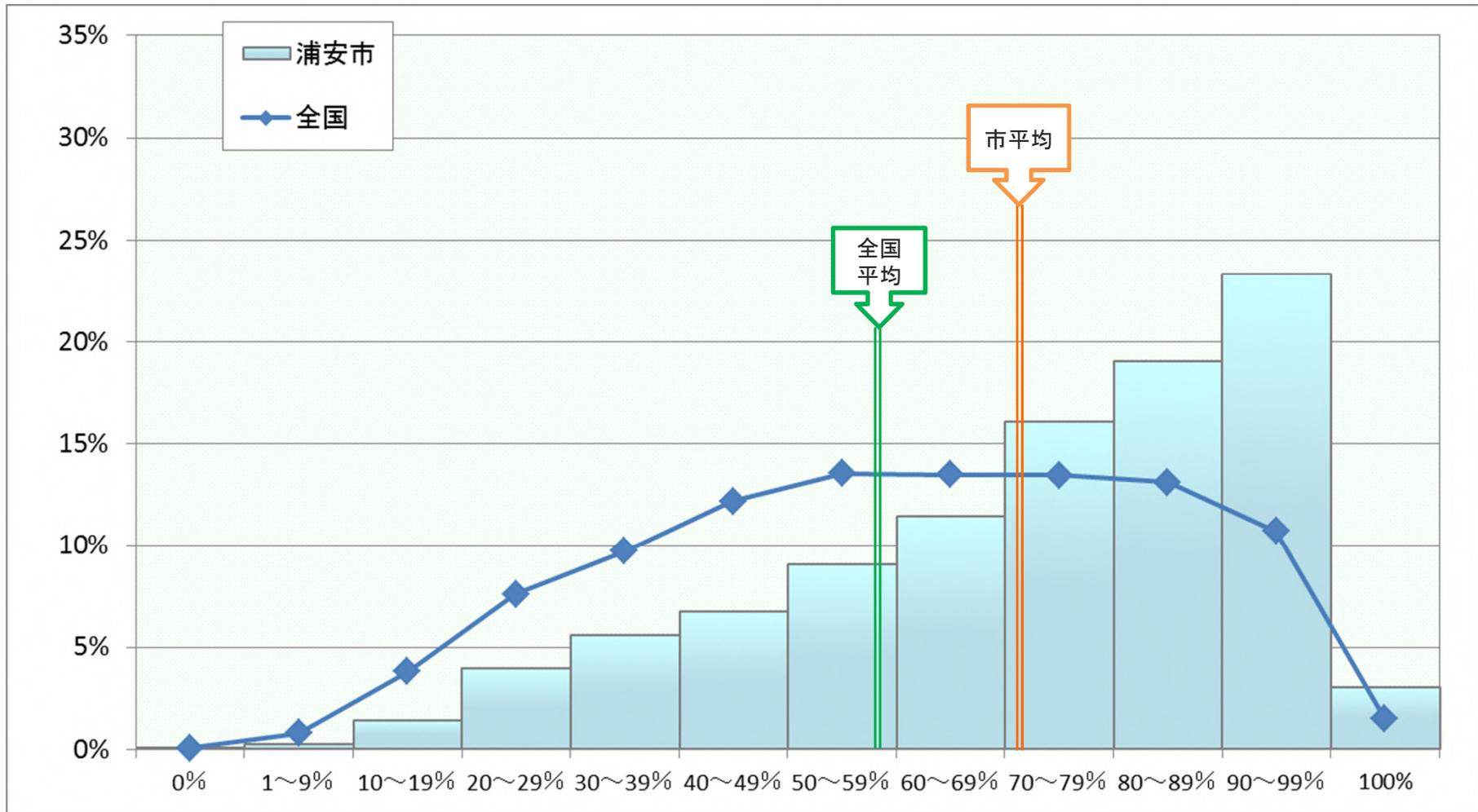
★観点別



★領域別



平成29年度 中学校2年英語 正答率度数分布



度数分布について

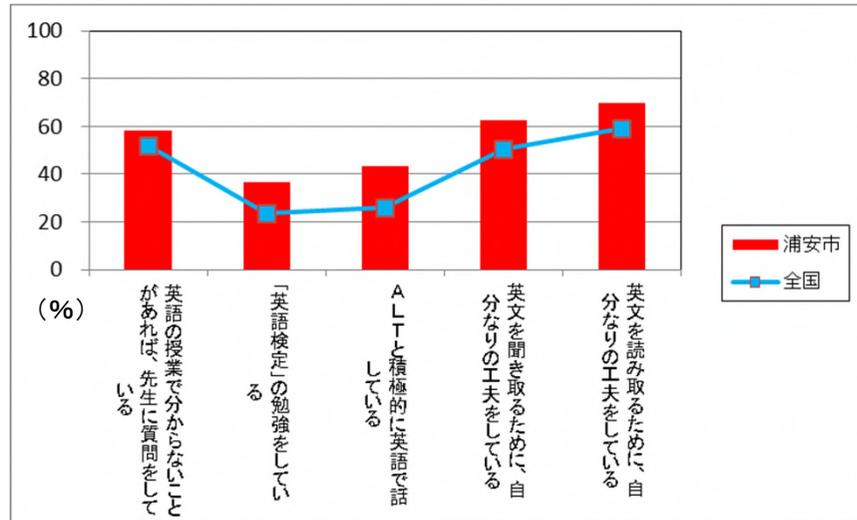
正答率が90~99%の人数の割合が最も高く、全国と比べてかなり高くなっていることがわかります。
 正答率が70%以上の生徒の割合は61%で、全国（39%）を22ポイントと大きく上回っており、かなり良好な結果と言えます。

平成29年度 中学校2年英語 質問紙調査結果

★市全体と全国との比較

(単位%)

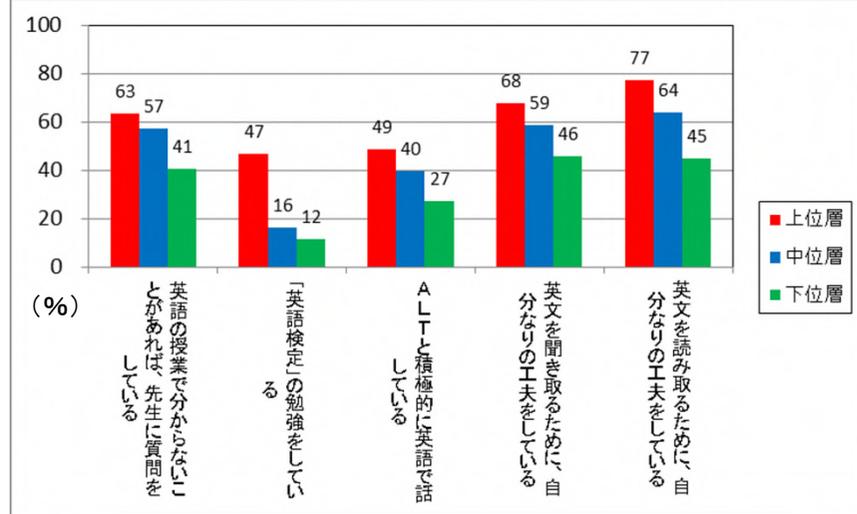
質問	浦安市	全国
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	58	52
「英語検定」の勉強をしている	37	23
ALTと積極的に英語で話している	44	26
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	63	50
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	70	59



★上位層と下位層の差

(単位%)

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	63	57	41	22
「英語検定」の勉強をしている	47	16	12	35
ALTと積極的に英語で話している	49	40	27	22
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	68	59	46	22
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	77	64	45	32



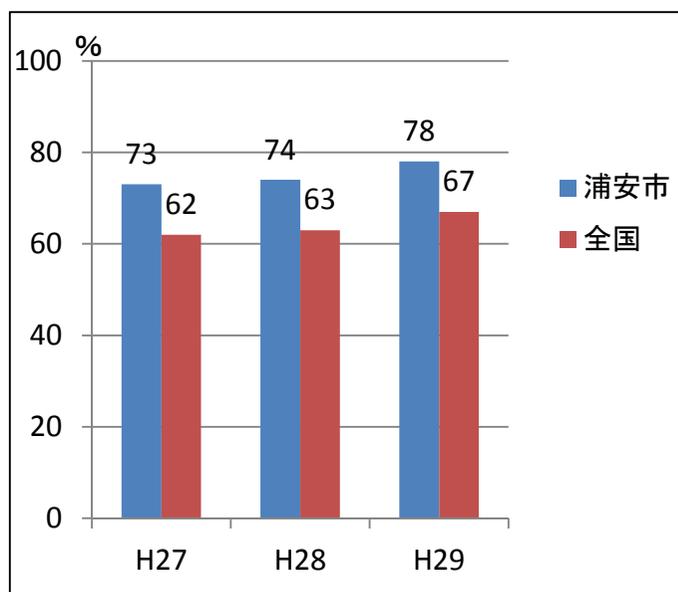
結果について

全体的に全国の結果を上回り、「ALTと積極的に英語で話している」「『英語検定』の勉強をしている」「英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている」が特に大きく上回っています。「『英語検定』の勉強をしている」「英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている」については、上位層と下位層に30ポイント以上の大きな差があります。

<優れている点・改善が見られた点>

【理解－聞くこと】の正答率が上昇

「理解－聞くこと」の正答率経年変化



リスニング（対話文の応答）において、特に「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる」の正答率が、昨年度を上回っています。

【語形・語法の知識・理解】の正答率が上昇

A: Mika, (listen) to me, please.

B: OK.

1 listen 2 listening 3 listens 4 listened

この問いでは、人名の後にコンマがあることで、人に対して呼びかけていること、また、文末にpleaseがあることで、丁寧に依頼している命令文であり、動詞の原形から始めるということを理解する必要があります。命令文の形は、1年生で学習する文法事項です。日常生活でよく使われる形でもあることから、確実に抑えておきたい文法事項です。

上記の問題については、昨年度と比べて4.9ポイント（H28：58.1% → H29：63.0%）上回っています。
また、全国値（53.1%）と比べて9.9ポイント上回っています。

<課題が見られる点>

【表現】書くこと

場面に応じて書く英作文

- 相手にどうやって学校に来るか
(交通手段) をたずねる場合

How do you come to school? **正答率 22.2%**

- ◆ 方法や手段を問う疑問詞 How の意味
- ◆ 疑問詞を含む疑問文の作り方

【知識・理解】書くこと

語形・語法の理解を確認する問題

- 一般動詞過去形を含む疑問文

A: Did your sister (play) the piano yesterday?

B: No, she didn't. **正答率 44.9%**

- ◆ 一般動詞過去形を含む文での動詞の形

場面に応じて書く英作文について、特に「交通手段」をたずねる場合は、全国正答率を5.5ポイント下回っています。教科書でも同様の表現に触れていますが、英文を書く場面になると正答率が低くなっている状況です。語形・語法を確認する問題では、一般動詞疑問文での動詞の形を正しく理解することが課題です。全体的にbe動詞に比べ、一般動詞になると正答率が下がる傾向が見られます。

<指導改善例>

【日常の授業で心がけたい取組】

- 定型表現は英作文の基礎であるため、確実に定着を図るようにする。
- 話す活動で扱った表現を書く活動につなげる指導を行う。

【学校・学年での取組】

中1(接続期)

- 小学校外国語活動における音声中心の指導から文字指導への橋渡しを丁寧に行う。
- 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、実際に行う言語活動と関連付けて指導する。

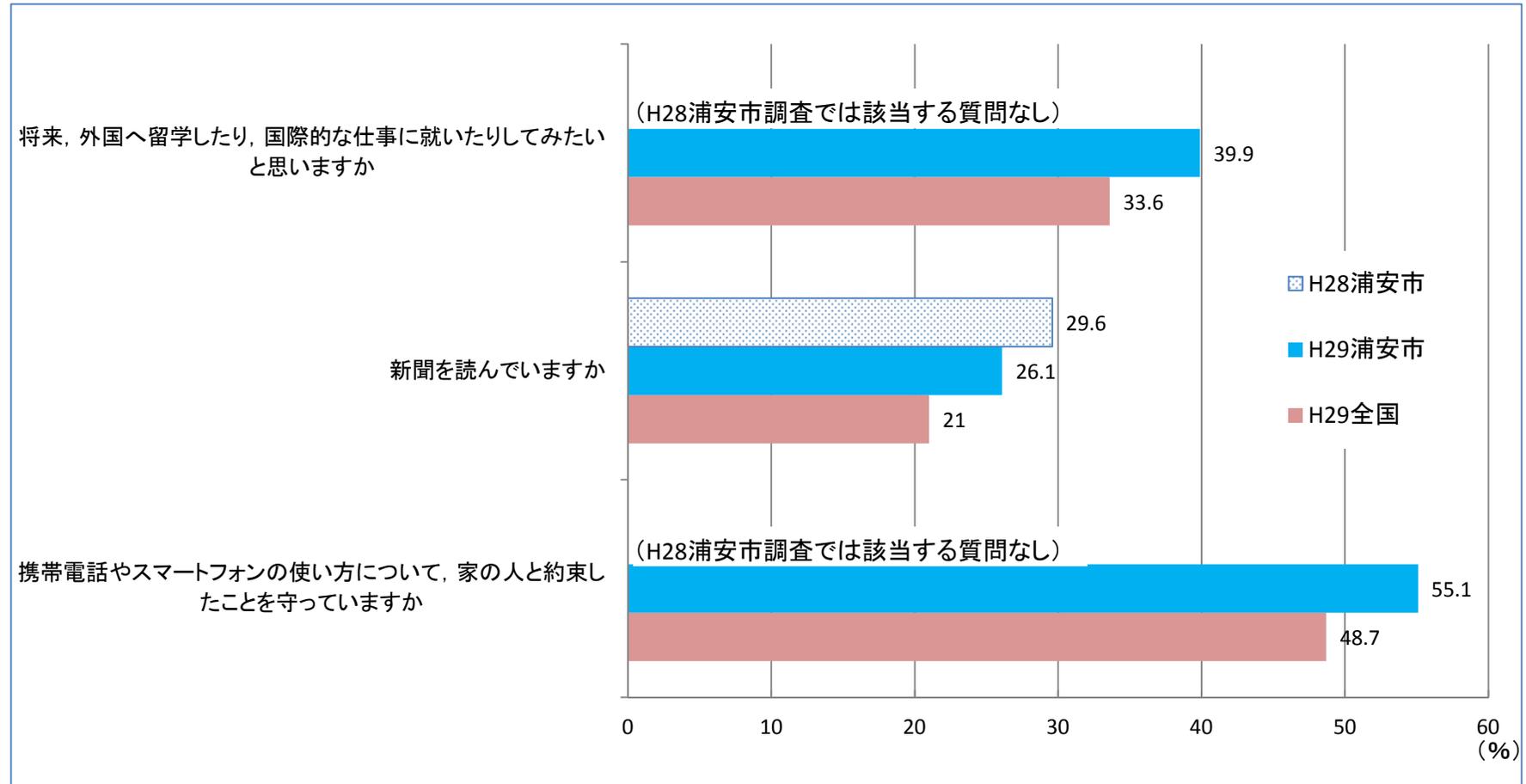
全学年

- 4技能を統合させた言語活動の設定
話す活動で終わりにするのではなく、聞く・読む・書く活動につなげる。



質問紙結果概要

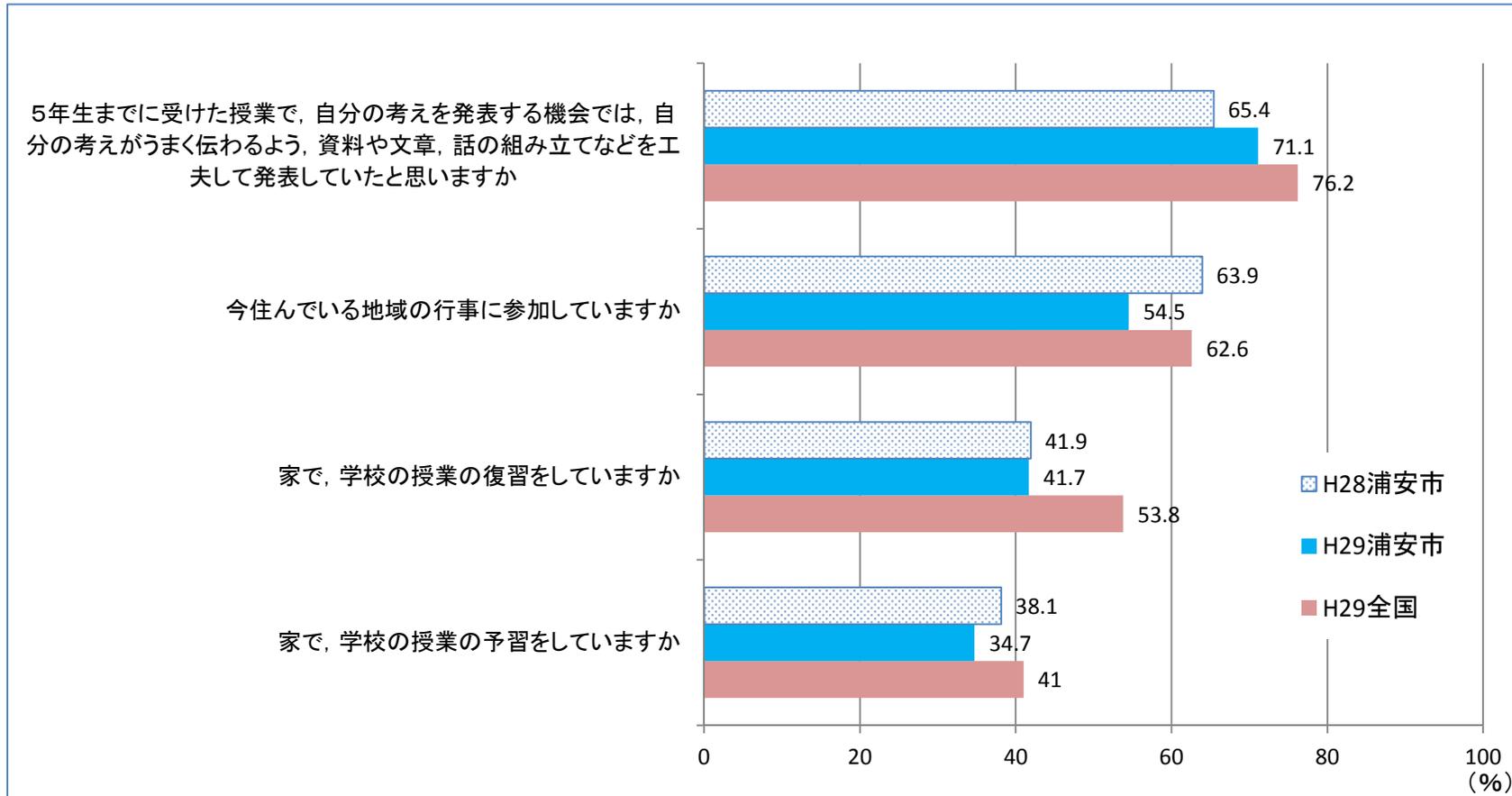
※各教科の結果ページで触れた以外の質問で、肯定的な回答(あてはまる+まああてはまる)の割合が全国結果と5ポイント以上差があった項目を掲載



- ・「新聞を読んでいる」と回答している児童の割合は、全国より高くなっていますが、28年度の浦安市と比較すると、減少傾向がうかがえます。
- ・「将来、留学したり、国際的な仕事に就きたい」児童の割合は全国の結果を上回っており、中学校も同様の傾向です。

平成29年度 小学校 質問紙調査結果

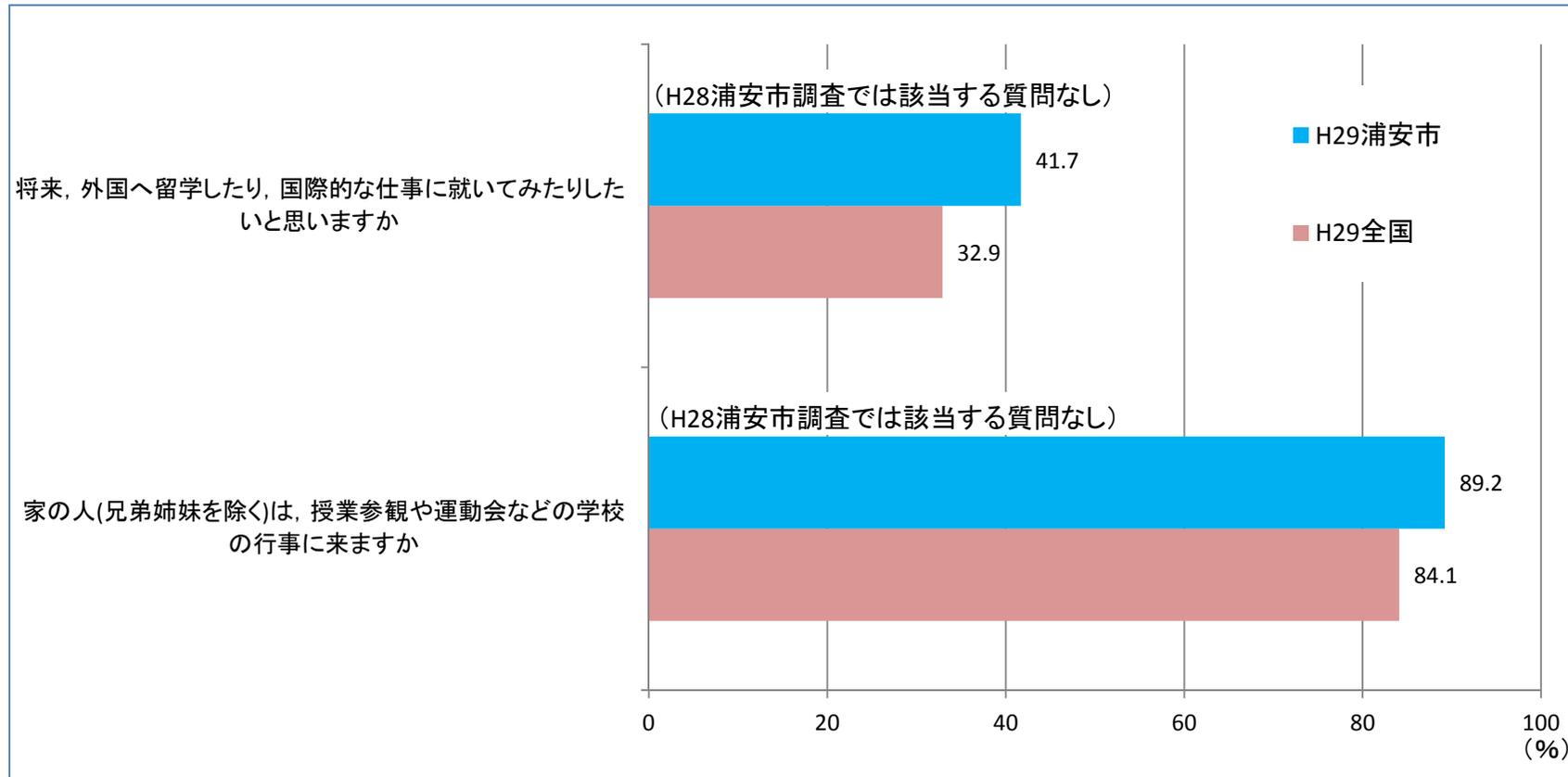
※全国より5p以上低かったもの



- ・「家で、学校の授業の復習をしている」児童の割合は、全国の結果を大きく下回っており、28年度と同程度の結果となっています。
- ・「地域の行事に参加している」児童の割合は、全国、また、28年度の浦安市結果より大きく減少しており、中学校も同様の傾向にあります。
- ・「発表する際に工夫して発表した」児童の割合は、全国の結果を大きく下回っていますが、28年度の浦安市結果より高くなっています。

平成29年度 中学校 質問紙調査結果

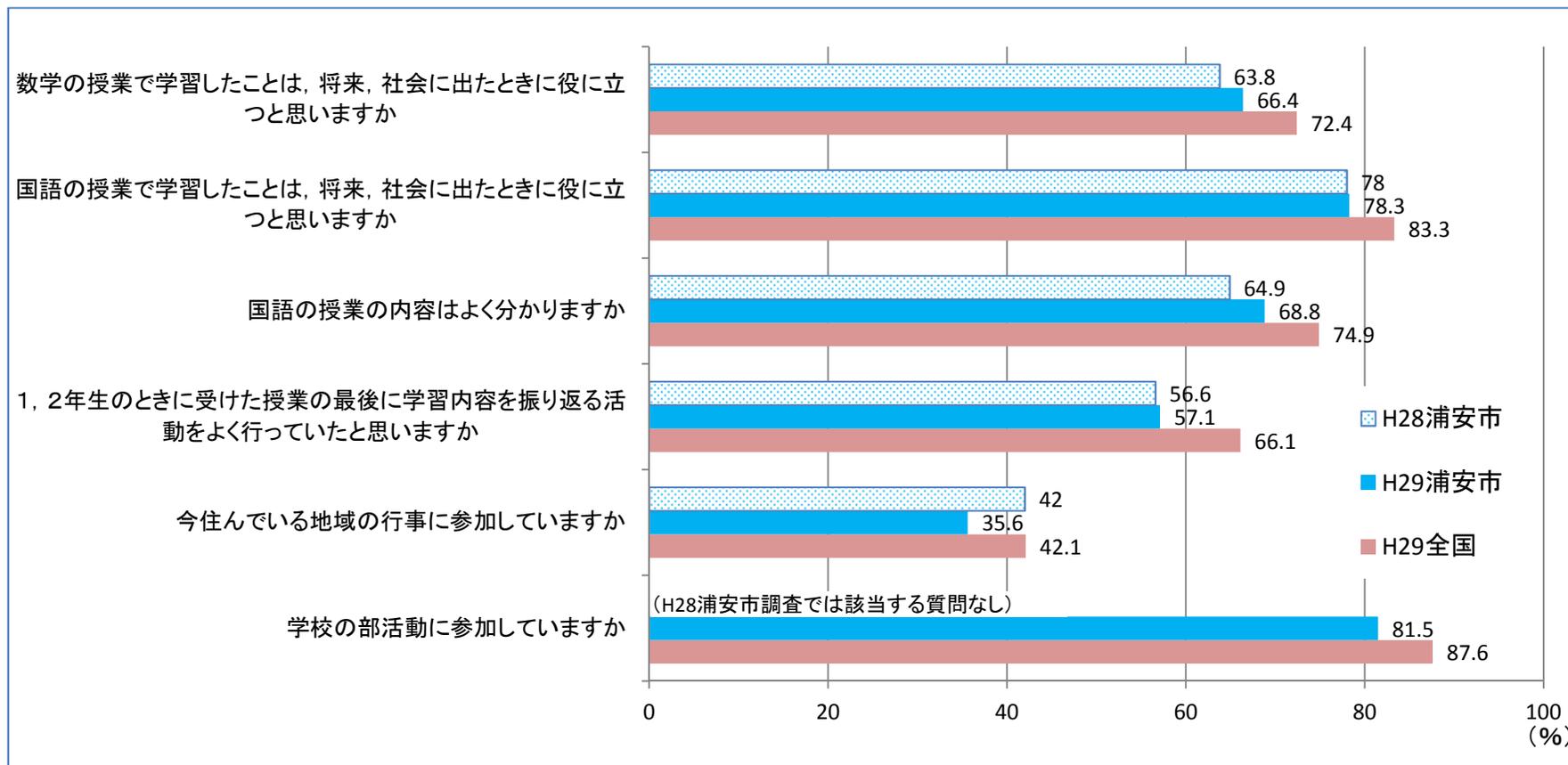
※全国より5p以上高かったもの



- ・「将来、留学したり、国際的な仕事に就きたい生徒の割合」は、全国の結果を上回っており、小学校も同様の傾向にあります。

平成29年度 中学校 質問紙調査結果

※全国より5p以上低かったもの



- ・「地域の行事に参加している」生徒の割合は、全国、また、平成28年度の浦安市結果より低くなっており、小学校も同様の傾向にあります。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」割合は、全国より特に低くなっています。
- ・「国語の授業の内容がよくわかる」生徒の割合は、全国より低い結果ですが、平成28年度の浦安市より高くなっています。

浦安の子どもたちの
確かな学力の向上を目指して
平成30年1月
浦安市教育委員会